

板 木

群馬県へき地教育研究資料第64集

平成28年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第64集

序



今年で第64集となったへき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和27年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育連盟が発足した年でもあります。「板木」は、群馬のへき地教育の歴史を刻み続けてきた記録と言えます。

また、全国へき地教育研究大会も、同じく昭和27年に第1回大会が開催されています。群馬県のへき地教育は、全国と同じだけの歴史を重ねてきたことになります。へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対して深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年度は全国へき地教育研究大会群馬県大会が無事終了し、3年以上にわたる研究に一区切りがつかしました。今年度はさらなる一歩を進めるべく、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」をテーマに県へき地教育研究大会が開催されました。

少子化や過疎化が進む中、へき地教育には、郷土に誇りをもち、郷土を支える人材の育成が求められています。このような視点に立ち、研究協議では「郷土の歴史・史跡を生かした取組」「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた誰もが『分かる・できる』授業」「地域の未来を背負う人材の育成を目指した学び」が紹介されました。

これらは、次期学習指導要領改訂に向けた検討の中で触れられている「伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として他者と協働しながら、新しい価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力」にも通じるものであり、へき地のみならず多くの教育関係者にとって有意義な実践となりました。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施しております。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など、多くの施策を推進してまいりました。また、特配教諭や非常勤講師を配置することにより、複式学級自体は存在するものの、多くの教科で学年ごとの授業が行われております。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られていることに感謝申し上げますとともに、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいりたいと思います。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第64集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表すとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成28年3月

群馬県教育委員会

教育長 吉野 勉

「板木」第64集の刊行に寄せて



昭和29年に「へき地教育振興法」が施行されてから60年余りが経ちます。以前は、へき地という言葉からは「都市地域から遠い」「交通の弁が悪い」「自然条件が厳しい」等の言葉が連想されました。

しかし、道路の整備、情報通信技術の発達などにより社会の情勢が変化する中で、へき地のもつ特性も大きく変わりました。都市部との往来が容易になり、文化や情報の伝達速度が向上し、生活の様式や価値観も都市化してきました。その一方で、道路や情報網の整備は人口流出の一

因となり、へき地の過疎化・高齢化を加速させているという面もあります。本県でも児童生徒数の減少により学校の統廃合が進んでおり、本年度のへき地指定校は39校となりました。

このような中、地方・地域の発展のため、へき地教育の振興・充実は益々重要になってくるものと言えます。そして、平成26年10月に盛大に開催されました全国へき地教育研究大会群馬県大会において本県の取組を全国へ発信できましたことは、大変意義深いものと考えます。

さて、群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきたことに対し、心より感謝申し上げます。これらは、へき地教育に献身的に取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第64集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

平成28年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

「板木」第64集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第64集として発刊の運びとなりました。この「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表します。

さて、全国へき地教育研究連盟では、研究主題として「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」を掲げ、平成26年度より第8次長期5カ年研究推進計画を進めています。その1年目にあたる昨年度に第63回全国へき地教育研究大会群馬大会を高崎市を全体会場にして、県内9カ所の小中学校で研究発表を行い、たくさんの成果を残し、終了することができました。本大会においては、自然環境に恵まれた「ふるさと」の特色ある歴史や文化に触れながら保護者及び地域の方々との交流を深め、「豊かな心」の育成を目指す教育実践や、「時代を切り拓く」たくましさを育てるために、一人ひとりの児童生徒を活かす教育課程編成やコミュニケーション能力の育成を目指した授業実践など、群馬のへき地教育のよさを提案することができました。そのほかにも地域の「ひと・もの・こと」との出会いを大切に研究発表を通してたくさんの収穫を得た大会でしたが、今後その成果をさらに広め深めるとともに、より一層の改善を目指した研究推進を図っていかねばなりません。その取組の一端を本刊よりお汲みとりいただければ幸いです。また、今年度熊本で開催された第64回全国へき地教育研究大会の概要報告も掲載しました。あわせて各校の教育推進の参考にしていただければ幸いです。

研究推進への弛まぬ道のりを歩む一方で、群馬県のへき地校の状況はここ数年さらに厳しくなってきました。平成26年度末で中之条町立沢田小学校、東吾妻町立坂上中学校、東吾妻町立岩島中学校の3校が閉校になりました。また、嬭恋村立西小学校、嬭恋村立田代小学校、嬭恋村立干俣小学校の3校が嬭恋村立西部小学校に統合されました。閉校になりました学校の歴史をわずかな紙数ではありますが本刊において綴り、歴史に刻む役割を担いたいと考えています。

また、今年度末には、沼田市立平川小学校、片品村立片品南小学校、片品村立武尊根小学校の3校が閉校になるという状況が続く中ではありますが、群馬県へき地教育研究連盟として総力をあげて、ふるさとを愛し、心豊かで新しい時代を切り拓く児童生徒の育成に向けた研究推進と教育実践とを進めていきたいと考えています。今後とも皆様方のご指導を賜りたく、お願い申し上げます。

結びになりますが、「板木」第64集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方に御礼を申し上げますとともに、日頃よりご指導とご支援をいただきました群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様には深く感謝申し上げます、発刊にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成28年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 倉林 由恭

も く じ

序 文

序	群馬県教育委員会教育長	吉野 勉
「板木」第64集の刊行に寄せて	群馬県へき地教育振興会長	星野巳喜雄
「板木」第64集の発刊にあたって	群馬県へき地教育研究連盟理事長	倉林 由恭

第1部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

中之条町立沢田小学校の閉校	中之条町立沢田小学校（前）校長	篠原 智彦	1
嬭恋村立西小学校の閉校	嬭恋村立西小学校（前）校長	柴崎 弘光	2
嬭恋村立田代小学校の閉校	嬭恋村立田代小学校（前）校長	宮崎 光男	3
嬭恋村立干俣小学校の閉校	嬭恋村立干俣小学校（前）校長	山口 暁夫	4
坂上中学校への思い	東吾妻町立坂上中学校（前）校長	牛木 雅人	5
東吾妻町立岩島中学校の閉校	東吾妻町立岩島中学校（前）校長	高山 明彦	6

II へき地の学校経営

〈1〉小学校

短期間サイクルの人事異動への対応	神流町立万場小学校長	黒澤 守	7
～学校行事計画(案)の様式統一と校務分掌の工夫を通して～			

〈2〉中学校

自主的・自治的な態度の育成	長野原町立西中学校長	石坂 満次	9
---------------	------------	-------	---

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

思考力を高める算数科の指導の工夫	沼田市立多那小学校長	中島 誓子	11
～言語活動を充実させるための支援を通して～			

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校

「あったかハート、いきいきスマイル」の広がりを目指した児童主体の積極的な生徒指導 -----	1 3
長野原町立北軽井沢小学校長	蜂須賀克明

〈2〉 中学校

自己有用感をはぐくむ教育活動を通じた生徒指導の充実 -----	1 5
みなかみ町立藤原中学校長	堀江 英也

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 平成27年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長 -----	1 7
長野原町立応桑小学校長	埴田 栄一

II 第64回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概 要 -----	1 8
---------------	-----

〈2〉 提案要旨

《小学校1班》

進んで学び、高め合える児童の育成 -----	1 9
～ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業実践を通して～	
草津町立草津小学校長	柴崎 弘光

《小学校2班》

自信をもって自分の思いや考えを表現できる心豊かな児童の育成 -----	2 0
～マリーゴールド学習を通して～	
上野村立上野小学校長	黒澤栄生子

《中学校班》

学校の特徴を生かした教育活動の推進 -----	2 1
～地域・高校との連携を生かして～	
沼田市立利根中学校長	今井 浩

III へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉 Aブロック (前橋・高崎・安中・多野・甘楽) -----	2 2
〈2〉 Bブロック (吾妻) -----	2 3
〈3〉 Cブロック (利根・沼田・渋川) -----	2 4

IV 第64回全国へき地教育研究大会（熊本大会）

〈1〉 概要報告	-----	2 5
	高崎市立倉渕小学校長	倉林 由恭
〈2〉 分散会報告		
第3分散会	地域に根ざし、家庭や地域と連携して 豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進を図る -----	2 6
	上野村立上野小学校教諭	高野 真史
〈3〉 分科会報告		
B分科会	小中連携による21世紀型の能力の育成 ----- ～9年間を通じた学力向上システムの構築を中心に～	2 7
	沼田市立平川小学校長	中野 敬造
E分科会	ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童の育成 ----- ～くらしを見つめ、学びをつなぐ「そよ子のふるさと学習」を通して～	2 8
	上野村立上野小学校長	黒澤栄生子
F分科会	ふるさとに誇りを持ち、未来につながる力を身につけた子どもの育成 ----- ～小中一貫校の特性を生かして～	2 9
	みなかみ町立藤原小・中学校長	堀江 英也
G分科会	主体的に生き生きと学び、互いに高め合う児童の育成 ----- ～ICTを活用した言語活動の充実を求めて～	3 0
	高山村立高山小学校教諭	関 幹彦
H分科会	主体的に学び、考え、表現する自立した生徒を目指して ----- ～学ぶ意欲を引き出す工夫とわかる喜びを意識した少人数指導の実践～	3 1
	嬭恋村立嬭恋中学校教諭	小幡今朝雄
I分科会	豊かにかかわり合い、学び続ける万江っ子の育成 ----- ～ICTの効果的な活用と言語活動の充実を通して～	3 2
	高崎市立倉渕小学校長	倉林 由恭
J分科会	学んだことを活用できる児童の姿をめざして ----- ～学ぶ力の定着とICTを活用した授業をとおして～	3 3
	群馬県教育委員会義務教育課指導主事	鈴木 健一

《資料》

I	平成27年度へき地学校資料 -----	3 4
II	平成27年度群馬県へき地教育振興会役員 -----	3 7
III	平成27年度群馬県へき地教育研究連盟役員 -----	3 8
IV	平成27年度群馬県へき地教育センター指導員 -----	3 9
V	平成27年度へき地教育功労者 -----	4 0
あとがき	-----	4 2

第 1 部

へき地教育の振興



第 64 回群馬県へき地教育研究大会班別研究協議
第 64 回全国へき地教育研究大会熊本大会より

I 変貌するへき地の学校

平成26年度に閉校した学校



中之条町立沢田小学校



嬭恋村立西小学校



嬭恋村立田代小学校



嬭恋村立干俣小学校



東吾妻町立坂上中学校



東吾妻町立岩島中学校

中之条町立沢田小学校の閉校

中之条町立沢田小学校（前）校長 篠原 智彦

1 はじめに

中之条町立沢田小学校は、130年以上の歴史をもつ中之条町立第二小学校と中之条町立第三小学校が統合し、平成17年4月に誕生しました。その沢田小学校の歴史が僅か10年で終わることを誰が予想できたでしょう。私自身が中之条町管内小・中学校の統合一覧を初めて知ったのは、平成23年12月です。平成24年6月には、中之条地区学校統合準備委員会が発足し、僅か3年間で、六合地区を除く管内小・中学校は、小学校1校、中学校1校へと統合されました。



2 沢田小学校の思い出

私が沢田小学校に新任校長として赴任したのは、平成23年の4月でした。期待と同時に、責任の重さに身の引き締まる思いで玄関に入ったのがついこの間のように思い出されます。以来、4年間お世話になりました。天真爛漫で何事にも一生懸命取り組む子どもたち、学校への協力を惜しまない保護者の皆様や地域の皆様に支えられ、充実した4年間を過ごすことができました。

保護者の皆様には、PTA活動をはじめ、様々な面で大変お世話になりました。その中で特に印象に残っているのは、早朝6時から親子で熱心に取り組んでいただいたPTA環境整備作業です。今振り返ると、この活動こそが、何事にも不平不満を言わずに一生懸命取り組む沢田っ子の原点だったと思えます。

地域の皆様にも、温かいご支援を数多くいただきました。中之条町が平成20年度から推進している「学校支援地域本部事業(学校お助け隊)」では、中之条太鼓の練習とミシン操作で地域の皆様にご指導いただきました。中之条太鼓の練習と発表会は、5年生恒例の活動となり、毎年2月に実施される発表会は、子どもたちだけでなく保護者の皆様も楽しみにしている行事となりました。中之条太鼓保存会の皆様には、発表会当日の準備や運営まで本当にお世話になりました。

平成25年5月から始まった中之条高校の生徒さんたちとの交流活動では、動物とのふれあい、リンゴの摘果と収穫、環境学習、米作など、学年に応じた貴重な体験をすることができました。その他、老人クラブの皆様による安全パトロール、地域のご婦人方によるおやつ作り、読み聞かせ、踊りの指導等々、子どもたちのために温かいご支援をいただきました。

スポーツ少年団の指導者の皆様にも、学校教育と歩調を合わせ、子どもたちの健全育成に大きく貢献していただきました。本当にありがとうございました。

3 おわりに

統合の大きなねらいは、小規模校によく見られる人間関係の固定化や序列化を改善し、多様な人間関係の中で社会性を培うことにあります。地域から学校がなくなることは、本当に残念なことですが、沢田小学校を巣立っていった子どもたちが、これからの数多くの出会いに向かい、大きく羽ばたいてくれることを願っています。

保護者の皆様、地域の皆様そして沢田小学校を支えてくださった全ての皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



孺恋村立西小学校の閉校

孺恋村立西小学校（前）校長 柴崎 弘光

1 はじめに

本校は、明治9年の大笹小学校の開校まで遡ると137年の歴史がある。西小学校としての歴史では昭和22年からとなり、平成27年3月末の閉校で67年の幕を降ろす。この間、本年度末で卒業生は4,626名の輩出となる。この地域に住んでいる多くの方々が西小学校の卒業生となる。

戦後間もない開校当初は、干俣分校、田代分校、小串分校も含めてのスタートであり、その後、昭和29年度に分校が独立して、大前・大笹地区の現在の通学範囲となった。昭和22年の開校当時は、児童数が千人を超えており、大規模小学校だった。

校訓とも言える「慈愛」の精神を大事にしながらかつて行事・自然との関わりも大切に、地域スポーツ（スケート等）の活性化も図りながら、児童の健全育成を地域と一体となって進めてきた。孺恋村の学校再編事業に伴い、平成27年度からは「西部小学校」として再スタートした。

2 学校の沿革

明治9年.3 大笹小学校設立

明治41年.4 孺恋尋常高等小学校設立。大笹設置

昭和16年.4 孺恋西国民学校と改称

昭和22年.4 孺恋村立西小学校と改称

昭和29年.4 分校が独立し、現在の通学区となる

昭和43年.5 埋め込み式スケートリンクを設置

昭和49年.11 全国小学校花いっぱいコンクール、群馬県地区最優秀校 (校舎全景)

昭和53年.3 開校百年記念式典挙行。記念碑設置

昭和56年.3 現在の体育館が完成

平成3年.5 千代田区との交流開始

平成4年.3 銀メダリスト黒岩敏幸選手歓迎会開催

平成18年.1 優良PTA群馬県教育委員会表彰

平成27年.3 新校舎完成。閉校記念式典挙行



(スケート学習)



(千代田区と交流)

3 おわりに

孺恋村出身のスケートのオリンピック選手6名中3名が本校の卒業生である。たんぼリンク時代からのスケート学習も、孺恋高校のリンクを借りて、地域の保護者の協力を得ながら続けてきた。平成3年から始まった孺恋村と千代田区との交流事業は24年目を迎えた。春の野菜の植付時の交流、秋の収穫時での交流と年2回の交流。児童の交流活動(ゲーム等)でも互いの交流を深めた。親子読書の流れで続けてきた「朝の読み聞かせボランティア」。また、「校庭の花いっぱい運動」「ふれあい教室」等。学習以外でも地域の方々の協力を得ながら教育内容の充実を図ってきた。

上記のように、スポーツ面・環境面・学習面等、地域の多くの方々の協力をいただき、特色ある活動を続けてきた。また、それらを基にして児童の健全育成を図りながら多くの成果も上げてきた。今後は3校が統合した西部小学校として開校するが、西小・田代小・干俣小のそれぞれの伝統や良さを継承し、地域の皆様方と共に喜びや感動を共有できる学校であり続けることを期待したい。

孺恋村立田代小学校の閉校

孺恋村立田代小学校（前）校長 宮崎 光男

1 はじめに

田代小学校の創立は明治7年。赤羽小学校を分離して第18番中学区204番小学区田代小学校と称した。田代村観音堂を仮校舎として設立された。就学生29名。それから、本年で実に140年の歴史を積み重ねてきた。この間には、幾多の世の変化があった。そして、今年度（平成27年度）、孺恋西小学校、千俣小学校との統合による孺恋村立西部小学校の開校にあたり、平成26年度をもって本校は幕を下ろした。

2 沿革概要

明治7年、田代小学校が開校する。その後、尋常小学校時代を経て、明治41年には、孺恋西尋常高等小学校田代分教場となる。国民学校時代を経て、戦後の昭和22年に孺恋村立西小学校田代分校となり、昭和29年には独立して孺恋村立田代小学校になった。閉校になる平成27年3月31日まで続いた。

「根のある教育」という揮毫が校長室にあった。これは、元群馬県教育長山川武正先生が田代小学校にお寄せくださった。「人間は大樹の美しさを賞賛する前に、地下の根に学ばなければならない」ということを表している。地域一丸となって学校を支える土壌があった。これが伝統をつくり、素晴らしい数々の成果をあげることができた。

交通安全教育に取り組み、昭和45年に安全教育指定校になってから実践の場として捉え自転車大会に出場してきている。群馬県交通安全子ども自転車大会に45回出場し、24連覇を含め31回優勝している。全国大会では、団体の部準優勝、個人の部優勝という実績を残している。

スキー場に隣接した立地条件等を活かし、冬場にはアルプンスキー、ノルディックスキーを体育の授業に取り入れ体力の向上に努めてきた。ウインタースポーツを通して丈夫な体作りを奨励し、有望な選手を多数輩出した。

音楽のコーラス部、陸上競技、ヤマメの飼育等…活躍が数多くあった。田代区民の皆様やPTAの方々、田代小学校の教育に対する絶ゆまぬ理解と協力を惜しむことなく尽くしていただいた結果、なし得たものである。その功績は、誠に偉大なものであった。

孺恋村立田代小学校
校歌



一
朝の光を浴びながら
きょうもニコニコ手をつなぎ
みんなで仲良く学ぼうよ
明るい校舎が待っている
われら われらの田代小学校

二
しらかば並木の校庭で
元気に体操 1 2 3
歌が聞こえる鳥もなく
夢が力がわいてくる
われら われらの田代小学校

三
夕陽を浴びてくつきりと
浅間がみんなによびかける
明日も笑顔でまたあおう
未来が世界が開けてく
われら われらの田代小学校

3 おわりに

140年間で3,000人以上の卒業生を送り出すことができた。田代区民の方々の築きあげた伝統が息づき、卒業生は地元や全国各地で大活躍をしている。例えば、地元では、地域一致協力して日本一のキャベツ産地としてブランド化し、美味しいキャベツを出荷している。

田代小学校を140年間温かく見守り、ご支援を賜りました皆様に心より感謝を申し上げますとともに、益々のご発展とご活躍を祈念し、筆を置く。

孺恋村立干俣小学校の閉校

孺恋村立干俣小学校（前）校長 山口 暁夫

1 はじめに

孺恋村立干俣小学校は、明治7年の開校より、140年の歴史を積み重ねてきました。しかしながら、時代の流れの中で、干俣小学校は平成27年3月末をもって閉校となりました。

2 沿革概要

これまでの干俣小学校の歴史を遡ると、明治7年に円通庵を仮校舎として、就学生20名で開校しました。明治32年には校舎が建築されましたが、学校再編により明治41年からは、西小学校の分校となりました。その後、子どもたちが増え、学級増となり、昭和26年には新校舎が建築され、昭和29年2月には西小学校から独立しました。そして、昭和53年には現在の鉄筋の校舎となり、校庭整備、体育館、プールの建築も行われてきました。

3 地域に根ざし、地域と共に成長した学校

開校時から干俣小学校は、地域の方々による子どもたちへの教育活動や教育環境のために多大なるご支援をずっと受け続けてきました。開校当初の校舎建築などでは、地域から沢山の援助をいただいたという記録も残っています。さらに、昭和40年代に始まった干俣小学校の他校には見られない特色であるスケート学習があります。地域・保護者の方々には、校舎裏のスケートリンクの造成、整備、管理等で支援をいただけてきました。オリンピック選手を2名も輩出しました。そして、小学校1年生で初めてスケート靴を履いても、シーズンの終わりには300m以上滑れるようになるほど、子どもたちは真剣にスケートに取り組んできました。また、昭和22年より始まった干俣区との合同運動会があります。地域の各年代層の方々と子どもたちが、共に汗を流し、共に歓喜する素晴らしい行事です。このように、干俣小学校は、まさに「地域に根ざし、地域と共に成長した学校」です。そして、これまでの地域・保護者からのスケート学習をはじめとする数々のご支援が文部科学省から評価され、平成26年度には、干俣小学校PTAが「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞することができました。



児童数の変容では、昭和33年の児童数は259名であり、1クラス平均40人を超えていました。その後、児童数は徐々に減り、平成26年度には51名となり、複式学級が2クラスとなりました。少人数であっても、子どもたちは、共に助け合い、和気藹々とした学校生活を送ってきました。そこには地域・保護者が、「自分たちの学校の自分たちの子ども」という温かい気持ちで、子どもたちに接していただいている伝統を感じます。昭和28年度より、平成26年度まで干俣の地域で育ち干俣小学校を巣立った卒業生は1,495名です。また、平成26年度末の5年生までの在校生は45名でした。そして、これまで携わってきた教職員も、干俣小学校の思い出を忘れることができないでしょう。

4 おわりに

平成27年度からは、西小学校、田代小学校、干俣小学校が統合し、新しく孺恋村立西部小学校としての第一歩を踏み出しました。西部小学校での干俣地区出身の子どもたちの様子は、勉強、運動に頑張っており、西部小学校でも活躍しているというお話を聞くことができました。統合という歴史的な変換点を前向きにとらえ、それぞれの子どもたち、そして地域が、さらに飛躍して行って欲しいと願っています。



坂上中学校への想い

東吾妻町立坂上中学校（前）校長 牛木 雅人

1 はじめに

東吾妻町の中学校5校の統合により、平成27年3月31日をもって閉校となった坂上中学校。昭和22年に新しい学校制度の下の開校以来、6,108名の生徒を社会に送り出した。生徒数が一番多かった昭和37年には卒業生が600名を超えていたが、昨今の少子高齢化で最後の卒業生は13人であった。この間に坂上中学校は地域の方々の温かいご支援により坂上地区の文化やスポーツ、地域のコミュニティの中心として大きな役割を果たしてきた。特に、部活動ではソフトボール部は関東大会優勝、駅伝部は県大会優勝など輝かしい実績を残した。閉校の年は三学期の始業式や閉校式の様子がテレビで放映され、卒業証書をもった卒業生全員が新聞の一面を飾るなど、生徒たちにとっても思い出深い年になった。



2 坂上中学校の思い出

この坂上中学校が幕を閉じるにあたって生徒たちに坂上中の過去の様子を知ってもらいたいと考え、卒業生に当時の学校の様子をインタビュー形式でビデオカメラで収録、編集し、DVDを作成した。そこで話してもらったことをいくつか紹介したい。

〈エピソード1〉「新制中学校の始まり」

校舎つくるのに生徒たちも働き手として作業に加わった。まだ、物資も少なく建設機材も無い中、人手を借りて人海戦術で校舎建築を行った。校舎の土台を作るのに温川の石を使うのだが、川岸から学校まで一列になって手渡しで石を運んだ。自分たちの手で学舎を作ろうという思いが多くの人を心を動かし、校舎の完成に至った。

〈エピソード2〉「多くの生徒、盛んな部活動」

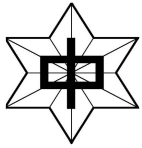
昭和40年代後半から部活動が盛んになってきて、生徒数も今ほど少なくなかったために、活動場所が足りないのが悩みであった。バレー部は体育館ではできずに校庭の一角で行ったため、レシーブでひざやひじが傷だらけになったが、練習に専念していた。体育館の中は三つの部がひしめき合って活動していた。

〈エピソード3〉「新校舎の建設」

平成元年に新校舎の建築工事が始まった。校舎が取り壊される日、教室の窓からその様子を見ていた。自分の今まで使っていた教室にショベルカーの先端が到達する時、先生が授業を中止し、その様子を皆に見せてくれ、今でもその光景が目に焼き付いている。

3 おわりに

坂上中学校の閉校に際し、多くの人にご協力をいただき閉校記念誌やDVDを作成した。そのことで、坂上中学校の歴史を振り返り、その時の様子や坂上中学校への思いを聞く機会を得ることができた。そこで話されたことは、教わった先生や学校行事、部活動での思い出だけでなく、進路のことや当時の社会状況など様々であった。学校が閉校になっても、関わった方々にはここでの日々の出来事が鮮明にそして永遠に残るものと思う。



東吾妻町立岩島中学校の閉校

～68年間 ありがとう～

東吾妻町立岩島中学校（前）校長 高山 明彦

1 はじめに

本校は、東南に榛名山、北に岩櫃山や吾嬬山などの山々に囲まれ、名勝吾妻溪谷を有する吾妻川沿いにあります。また、ハート型土偶の出土や岩櫃城址など豊かな歴史遺産を有しています。

戦後の学制改革により昭和22年に1年生185名、2年生109名、3年生77名、全校生徒371名で開校、そして、平成27年3月に6,174名の卒業生を送り出し、地域文化の拠点として大きな役割を果たしてきました。しかし、時の流れ、少子化により統合を余儀なくされ、68年間の歴史を閉じることになりました。

なお、岩島中学校の校章は、麻の葉の中に中学校の中を入れたものです。旧岩島村の中心生産物である麻は、天正年間より栽培され、養蚕と共に主としたものである所から、麻を忘れず郷土につながりをもつ中学生になってほしいという願いが込められています。

2 沿革概要

- 昭和22. 4 岩島村立岩島中学校創設
- 昭和35. 3 校歌制定
- 昭和36. 3 体育館落成
- 昭和44. 8 プール竣工
- 昭和48. 10 県中学校駅伝大会初優勝～
- 昭和51. 10 県中学校駅伝大会4年連続優勝
- 昭和58. 11 新校舎完成
- 昭和59. 10 県中学校駅伝大会優勝
- 昭和59. 12 食堂技術科室完成
- 昭和61. 12 優良PTA表彰受賞
- 平成3. 11 校庭・校門改修
- 平成4. 10 優良PTA表彰受賞
- 平成4. 12 学校後援会発足
- 平成21. 12 プール撤去・跡地駐車場の整備
- 平成25. 1 優良PTA表彰受賞
- 平成27. 3 閉校記念式典挙



3 おわりに

本校は、文部科学省指定産業教育研究推進校、県教育委員会指定数学科研究推進校・安全教育研究推進校・体力づくり実践推進校、文部科学省指定学力フロンティア研究推進校など数々の指定研究を受ける中、知・徳・体のバランスのとれた人材を輩出してきました。さらに、部活動では、陸上競技での活躍はめざましく、県駅伝競走大会で4連覇や全国や関東大会などにも出場するなどの成績を残しています。

本校が地域から消えても、地域の方や卒業生の心の中に「岩島中学校」は永遠に息づき、岩島中のよさは語り継がれていくものと確信しております。また、綿々築き上げてきた今までの伝統や実績は永遠に消えることはありません。必ずや東吾妻中学校においても生かされ、伸び伸びと成長することを信じています。

Ⅱ へき地の学校経営

〈1〉小学校

短期間サイクルの人事異動への対応

～学校行事計画（案）の様式統一と校務分掌の工夫を通して～

神流町立万場小学校長 黒澤 守

1 学校の概要

神流町は、平成の大合併の際に県内先頭を切って、平成15年4月1日、旧万場町と旧中里村が合併してできた町である。群馬県の南西部に位置し、南は埼玉県である。周囲を1,000m級の山々に囲まれ、山林が約9割を占めるなど、自然が豊かである。町の中央を西から東へ流れる関東一の清流神流川とその支流に沿って集落が点在している。

人口は2,139人（平成27年4月1日現在）であるが、昭和30年代後半からの人口流出により過疎化と高齢化が進んでいる。町のシンボルである「鯉のぼり」と「恐竜」は、全国的に有名である。平成25年11月より、ゆるキャラ『サウルスくん』が登場し、人気を博している。

本校は、町村合併の1年後に、万場小学校と中里小学校が統合し、『神流町立万場小学校』として、旧万場小学校の校舎を使い、新たに開校した。平成24年7月20日には新校舎が完成し、夏休み中に、児童だけでなく、保護者、役場職員、議会議員の方々のご協力により、引っ越しを行った。旧校舎は24年度中に取り壊され、25年度には跡地に神流町保育所も建設された。

本年度（平成27年度）の児童は41名、6学級編成（実質は7学級）である。児童は、徒歩と3台のスクールバスで、東西約16kmの範囲から通学している。伝統的に学校教育に対する保護者の協力が力強く、また、地域の教育力が高く、地域ぐるみで児童を育てている。（ホームページもご覧ください。）



2 教育目標

基本目標： 社会の変化に対応できる「生きる力」を身に付けた児童の育成

目指す児童像： 「かしこく（明智）」「やさしく（親愛）」「たくましく（勇気）」

3 経営の基本方針

地域・保護者から信頼される学校作り

- (1) 全教職員が「かしこく」「やさしく」「たくましく」を目指した教育活動及び学校経営に取り組む。
- (2) 児童が「かしこく」「やさしく」「たくましく」を意識して活動に取り組めるようにする。
- (3) 学校と保護者が、「かしこく」「やさしく」「たくましく」ある児童の姿を共有して連携する。
- (4) 保育所、中学校、教育委員会及びその他の関係機関と連携して教育活動を行う。

4 実践の概要

- (1) 学校組織運営上の課題

本校の教諭の大半が、「へき地誓約」により勤務する若手教員で、3年間の本校勤務の後、平坦地に戻るため、頻繁な人事異動の中で教育活動の継続性と質を確保する必要がある。

(2) 課題解決のための取り組み

① 「学校行事計画（案）」の工夫

職員会議等での行事提案の際に、統一した「学校行事計画（案）」（下図）を使用する。この様式を使うことで、以下の効果を狙う。

- ・提案に必要な事項が網羅される。
→ 初めての行事でも全体像がつかめる。
- ・「ねらい」が、目指す児童像の項目に沿って明確に提示される。
- ・事前と事後の指導内容が分かり、指導の流れが見える。
→ 指導についての質問がしやすくなる。
- ・準備としてやっておくべきことが明確になり、点検が容易になる。
→ 実施日が近くなって慌てなくてすむ。
同僚が助言・協力しやすい。
- ・評価の規準が分かる。
→ 改善の方向が見えやすい。

この計画（案）を職員共有のNASに保存して、毎年改善しながら使うことに

した。平成23年度に導入し、保存や活用について改善しながら継続して取り組んでいる。

② 校務分掌担当の工夫

職員が3年で異動することを考えると、少し乱暴だが、1年目：新人、2年目：経験者、3年目：ベテランということになる。上の①のような工夫をしたとしても、新人がベテランの穴を埋めるのは簡単ではない。そこで、教務主任等の特別な分掌を除き主な分掌については、3年連続での同一分掌担当を避けることにした。そのことで、「新人」が担当する分掌については、仕事の内容を知っている職員が校内に残っているようにすることができる。

また、3月の内示が出た後に、新年度の校内組織をほぼ固めて、留任予定の職員には担当してもらおう分掌を伝えるとともに、4月当初の行事等に関しては、新人の分まで準備を進めておいてもらうようにしている。

(3) 取組の成果と課題

- ① 成果
 - 行事や諸活動の質と継続性が保たれるとともに、職員の多忙感が緩和された。
 - 分掌の担当に任せきりにならず、協働体制で行事等の教育活動に当たれている。
- ② 課題
 - 各項目の記述内容について、更に改善・充実させていく。
 - 「準備」の項目に、教頭等が担当する渉外関係の項目を確実に入れていく。

5 おわりに

学校教育で最も大切に核になるのが授業であることは言うまでもない。しかし、教員が行事等の準備に多くの時間を割かれるのも事実である。授業以外の業務を有効かつ効率よく進めることで、教材研究はもとより、子どもと触れ合う時間が確保できる。へき地小規模校に共通の短期間の人事異動の中でも、行事や諸活動の質と継続性を確保しつつ、教員が本来実践したいと思っているよい授業や、子どもとの触れ合いができる環境や条件を整えていきたい。そのことを通して、子どもたちの生き生きとした目の輝きに応えていきたいと考えている。

平成27年度 学校行事計画案 神流町立万場小学校

名称	5年生社会科見学旅行	担当	5年担任
日時	平成27年10月21日(水)		
参加者	教頭、5年担任(2名)、5年児童全員(8名)		
場所	華蔵寺公園(伊勢崎)、富士重工業矢島工場(太田)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・富士重工業の工場見学を通して、社会科で学習した工場の仕組みについての理解を深める。(かしこく) ・遊園地で、班ごとの計画に基づいて集団で活動する。(やさしく) 		
日程	8:10 学校発	これは例で、各項目内容を省略してあります。	
	17:10 学校着		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 前 ・日本における…、自動車工場の仕組みを学習する。(社会科) ・華蔵寺公園について調べ、班で計画…。(学級活動) 中 ・望ましい態度で説明を聞いたり、…する。 ・仲間を気遣いながら活動できるようにする。 後 ・見学を振り返り、学習したことをまとめる。 ・お礼の手紙を書く。 		
準備	<ul style="list-style-type: none"> ① 富士重工業の見学を申し込む。 <担任・教頭> ② バス及び運転手を手配する。 <教頭> ： ○ 現地の下見を行う。(夏休み中) <担当2名> ○ しおりを作成する。 <児童・担任> 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・(自動車)工場について理解を深めることができたか。 ・集団行動の中で、約束やルールを守って活動できたか。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・乗利物券：17枚つづり ¥1,000 		

〈2〉中学校

自主的・自治的な態度の育成

長野原町立西中学校長 石坂 満次

1 学校の概要

本校は、吾妻郡の南西部、浅間山の北麓に位置し、標高980mの自然豊かな高原にある。地域の産業は、高原野菜の栽培を中心とした農業、明治時代の開拓から始まった酪農、そして避暑地としての観光業が盛んである。昭和24年、校舎が完成し長野原中学校応桑分校から西中学校として開校となった。現在の校舎は昭和54年に建てられ、耐震工事・大規模改修、体育館やテニスコートなどの新設を経て今に至っている。学区内には、応桑小学校、北軽井沢小学校の2校がある。開校当時は生徒数230人で、266人在籍していた時もあったが、現在は生徒数81名、4学級の小規模校となっている。



2 学校教育目標

郷土を愛する心と社会連携意識、正しい国民的自覚と国際協調精神及び高い知性、豊かな情操と徳性を培うとともに、誠実・規律・勤勉な日常生活を實踐できる心身ともにたくましい実践力をもった生徒の育成に努める。

3 学校経営方針

- (1) 生徒と教職員の人的ふれあいや信頼関係を基底にして、学校の組織力を高めながら、全ての教育活動に意欲的に取り組む活力ある学校運営に努める。
- (2) 教育者としての自覚と使命感をもち、授業力の向上を図りながら、生徒一人一人に個に応じたきめ細かな指導を行い、学力向上に努める。
- (3) 心に響く魅力ある道徳の授業を構想し、道徳的実践力を身に付け自らより良い生き方を求め続けることができる生徒の育成に努める。
- (4) 生徒理解を深めながら好ましい人間関係づくりを進め、報告・連絡・相談の徹底による組織的な対応を図り、規範意識の向上や“いじめ・不登校”問題への対応に積極的に取り組む。
- (5) 生き方指導としてのキャリア教育を充実させ、生徒が目標を持って学校生活を送り、希望する進路に向かって自己実現できる能力の育成に努める。
- (6) 町の「土台の教育(7ルール)」に則り、生徒が目標をもってより良い生活が送れるよう、基本的な生活習慣の改善を図るため、保護者(P T A)との連携・協力による支援・指導の充実に努める。
- (7) へき地小規模校の良さや恵まれた自然環境の教育的意義を重視し、学習素材や地域人材の活用を図り、様々な体験活動の充実に努める。
- (8) 家庭や地域社会との連携を密にして、それぞれの相互信頼関係を築き、情報発信や説明責任を果たし、信頼される開かれた学校づくりに努める。

4 実践の概要

「様々な活動の前面に生徒を据え、自分たちの手でやり遂げる」ことで成功体験を味わわせ自信を持たせるとともに生徒の主体性を伸ばす。また、「より良い長西中」を築くことを目標として生徒が生徒に発信、実践し、自治的な態度を育成している。

(1) 「さわやか街道」クリーンアップ運動

さわやか街道は、「浅間・白根・志賀さわやか街道」といい、街道沿いの景観や自然、歴史、文化をそれぞれの地域の人たちで大切にし、整備していこうというものである。

中学生として地域の方々の役に立ちたいという生徒の思いから始まり、ゴミ拾いをしたり、花を植えたりしている。

且つ、「自分たちでできることを自分たちの手で」という基本理念も浸透してきており、美化を呼びかける看板を作ったり、バス停に手作りのゴミ箱を設置し管理したり、中学生らしい地域貢献活動を実践している。成し遂げた満足感や地域に役立っているという自己有用感を味わうとともに、次の活動への意欲を喚起している。



(2) 自治的な生徒会活動を

『「生徒心得」は校則ではありません。長西中生に校則はいりません。校則がいない学校であることに誇りと自覚をもって、自主的・自律的に生活しましょう。

一番大切なのは決まりに縛られるのではなく、何が正しいのか、正しくないのか、この生徒心得を参考に、自分で**気づき・判断し・行動**することです。』

生徒総会の第1号議案の冒頭である。以下7つの項目が心得としてあり、細かいことは自分たちで判断し行動することとなっている。校則で縛られるのではなく、自分たちで判断して行動することにより、学校生活を自分たちの手でよりよくしていこうという考えが底流にはある。

平成24年に「いじめ撲滅宣言」を作成した。翌年、これをさらに発展させ、より良い学校づくりを進め、笑顔あふれる長西中を実現するため、生徒総会で話し合い、「フルスマイル宣言」を作成し、生徒主体で取り組んでいる。

長期休業中のしおりも生徒会本部が過ごし方や課題、心得などをまとめ、冊子を作り、生徒から生徒に発信をしている。

文化祭は、昨年より実行委員会の中を5つの準備部会に分け、各準備部会の生徒が準備・作業を進めている。今年度は、二年目で作業内容・計画、部会間の連携も円滑になってきた。生徒会からの提案により職員会議で協議した、後夜祭も三年目になる。文化祭後の健闘を讃え、成果を共有し、達成感を味わういい機会となっている。

また、生徒の提案から始まったのが、「朝学習数学マスター」である。本校の朝学習は読書である。その成果もあり読書が好きな生徒が多い。その中で「数学も一日でいいからさせてください。」と学習委員会からの申し出があった。顧問の先生や生徒会本部との協議を経てのことである。職員会議で検討し、現在は、毎週火曜日に基礎問題を全校で行っている。問題作成や採点、集計はもちろん学習委員会である。

5 おわりに

「より良い西中」の実現を目指して生徒が自主的に活動している。しかし、生徒だけで物事を成し遂げたり、自律した学校生活を送ったりすることは難しいことである。その背景には、教職員の多大な支援と用意周到な指導がある。事前に共通理解を図り、それぞれの立場から指導をする。学校生活であれば、生徒が発信したことに立ち返らせ、気付かせる。行事であれば経過を職員間で情報交換をし、指導・修正をする。小規模校では、生徒全員の日常の細かな様子をとらえることができ、教職員の共通理解を図ることができる。この特色を生かし、生徒が自分たちの手でやり遂げたという場面を積極的に作り、自主的・自治的な態度を、一層育んでいきたい。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

思考力を高める算数科の指導の工夫

～言語活動を充実させるための支援を通して～

沼田市立多那小学校長 中島 誓子

1 学校の概要

本校は赤城山北面丘陵地にある野菜作りが盛んな農村地区にある。小学生48名中学生40名の小規模の小中併設校である。中学校長が小学校長を兼務し、小中にそれぞれ教頭を配置している。校舎・校庭・体育館等小中で共有し、運動会やマラソン大会等の行事は小中合同で実施している。

本年度小学校は、5、6年生が複式学級で、特別支援学級を含めて全6学級である。児童は明るく素直で思いやりがあり、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。保護者や地域の方々は、地域の学校という意識が高く、多那校と呼んで、様々な教育活動に協力的である。

2 主題設定の理由

本校の学校教育目標は、「知・徳・体の調和のとれた、豊かな心を持ち、自ら考え、正しく判断し、行動できる児童を育成する」である。本校では昨年度、校内研修の主題を『思考力を高める算数科の指導の工夫』、副主題を「問題解決的な学習における学び合い活動に視点を当てて」とし、思考力を高める指導の工夫を、問題解決的な学習における学び合い活動の中で行ってきた。その結果、成果としては、職員が学び合い活動の形態（ペア・グループ、全体）における手立ての有効性について検討・協議し、共通理解が図れたこと、学び合いの場を意識的に設定することで、児童が自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする経験を積み、自分の考えを広げたり深めたりする児童の姿が見られるようになってきたことがあげられた。一方、課題としては、自分の考えを式・図・表などを使って根拠を示しながら説明することが不十分であったこと、また、学び合いの時間に自分の考えを言って友達の考えを聞くだけの活動に終始してしまわないように、より有効な手立てを工夫し、学び合い活動の充実を図ることなどがあげられた。

本年度は主題を『思考力を高める算数科の指導の工夫』、副主題を「言語活動を充実させるための支援を通して」とし、昨年度の研修を踏まえて、算数科における「言語活動」すなわち、「言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動」を充実させるための支援を工夫することで、思考力を高めるための研修を行っていくこととした。

3 実践の概要

(1) 研究の方針

- 算数科における問題解決的な学習過程（目当ての確認→課題把握→自力解決→集団解決→まとめ→振り返り）において、言語活動を充実させるための支援を工夫することにより、児童の思考力を高める。
- 「算数科における思考力が高まった児童像」（低・中・高）を設定し、それに迫る授業を構築する。
- 「学習過程の見えるノート指導」の共通理解を図るとともに、「数学的な考え方を育てる話型」の教室掲示と活用を図る。

(2) 授業実践

- ① 5年算数 「小数のかけ算」

【授業の視点】 80×2.3 の答えの求め方を考えるために、2つの数直線を提示したことは、整数 \times 小数の計算のしかたを考える上で有効だったか。

【授業の概要】2枚の数直線図を配布し、児童が選んだものを用いて考える活動により、思考を深めていた。低位の児童には手順を示すヒントカードを用意したことで、思考の整理に役立った。また、他者説明を取り入れたことは効果的であった。

② 2年算数 「たし算とひき算の図」

【授業の視点】加法の問題を考えるために、ブロックやドット図とテープ図を比較したことは、テープ図の利便性に気づく上で、有効だったか。

【授業の概要】 $\square + \triangle$ の計算をする際、教師のブロックや絵、ドット図の使い方の説明が分かり易く、自力解決がスムーズに進んだ。テープ図のよさに気づけていた。友達のノートを見合う活動（ギャラリーウォーク）が少人数での学習活動に適していた。

③ 4年算数 「こわれた電卓」

【授業の視点】計算のきまりなどを工夫して用いる方法を深める上で、話型を意識した学び合い活動を取り入れたことは、有効であったか。

【授業の概要】5のキーの使えない電卓で 18×25 の答えを求める方法を考えさせた。交流場面で分かり易い説明ができるよう話型を意識したヒントカードを用意したことで、順序立てて説明することができていた。実物投影機でノートを映しての説明が効果的であった。

④ 3年算数 「植木算」

【授業の視点】図をかいて問題を解かせたことは、筋道を立てて考える力を育てる上で有効であったか。

【授業の概要】木の本数（5本）と間の数（4つ）の関係を考える問題で、場面を読み取り、図にかいた上で、それを活用して説明させたことで、理解が深まった。考え方の比較ができる板書や実物投影機も効果的であった。

⑤ 1年算数 「たしざん」

【授業の視点】 $9 + 3$ の答えの求め方を考えるために、ブロックなどの操作活動を取り入れ、考えを交流したことは「10といくつ」とする見方を深める上で有効であったか。

【授業の概要】 $9 + 3$ の計算のしかたを考える上で、ブロックやドット図を用いて、十分に自力解決の時間を確保したことで、10のまとまりをつくり、10といくつとすることを意識することができた。ギャラリーウォークにより、複数のやり方を確認できた。

⑥ 6年算数 「算数を使って考えよう」

【授業の視点】2つの式が等しくなることを考えるために、図を活用して各々の考え方を交流し、考えを1つにまとめたことは、数学的な思考力・表現力を養う上で有効であったか。

【授業の概要】半径30cmの円と半径15cmの円4つ分の面積が同じであることを式を変形して説明させたが、図を活用したことで、「 $\times 4$ 」を「 $\times 2 \times 2$ 」に変形できることが理解できた。互いのノートを見ながら説明を聞くことで、考え方の交流ができていた。

4 まとめと今後の課題

自分の考えを図や式に表し、説明を考える場を設けることで、一人一人が集中して自力解決に取り組むようになってきた。また、ペア学習やギャラリーウォーク、他者説明等を取り入れることにより、集団解決での思考が深まった。今後は、集団解決の場で、話型を意識させて説明する経験を積ませたり、集団解決の場における考え方の比較・検討・集約の場の確保と、教師の適切な支援について実践していく中で手立てを探っていききたい。

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

「あったかハート、いきいきスマイル」の 広がりを目指した児童主体の積極的な生徒指導

長野原町立北軽井沢小学校長 蜂須賀 克明

1 地域・学校の概要

本校は、浅間山の麓、標高1100mにある児童数87名、学級数7学級の小規模へき地校である。地域住民は、満州開拓者の戦後引きあげによる農地開拓から始まり、酪農経営、レタス・キャベツ・白菜を中心とした高原野菜を大規模に手がける農家の人々、浅間山周辺のリゾート観光に携わる人々、そして夏の間の別荘住まいの人々など、職種は多彩であり、他地域からの交流人口も多い。

校舎は浅間山の広大な裾野に広がる森林の中であり、春は新緑、夏は万緑、秋は紅葉、冬は白銀の世界であり、大自然に囲まれた静かな環境にある。

2 今年度の生徒指導の方針と努力点

(1) 方針

- ① 人権教育研究の文部科学省指定(平成24・25年度)の成果を生かし、人権教育を推進する上での合い言葉「あったかハート、いきいきスマイル」を生かした取組を全教育活動において積極的に行う。
- ② 児童会活動や団別活動を活性化させることで、児童が自らいじめ撲滅に向けた取組を行うことによって人権意識を高め、行動として表現できる児童を育てる。
- ③ いじめ問題を克服するために、本校の教育活動全体を通じて、すべての児童を対象にいじめの未然防止の取組を行う。特に、すべての児童に「いじめは人権を侵害する絶対に許されない行為である」と理解を促し、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を行う。

(2) 努力点

- ① 児童会活動を通して、児童主体の取組を充実させることで、「あったかハート、いきいきスマイル」をさらに児童の心に浸透させ、思いやりの心を育てる。
- ② 学校生活全体の中で、団別の縦割り活動を見直し、取組を充実させる。児童が自分や他の人の大切さが認められていることを実感できるような活動を行う中で、集団生活におけるルールを尊重したりすることにより、温かさの中にも規律ある学級・学校を作る。
- ③ いじめ防止及び早期発見のために、道徳教育及び体験活動の充実、学級経営の充実、学級活動・児童会活動の活性化、児童の人権意識の向上、学習指導の充実、開かれた学校づくり、インターネットいじめの防止に積極的に取り組む。

3 具体的な取組

(1) 「あったかハート、いきいきスマイル」を広げる取組

12月の人権集会に合わせて、「あったかハート、いきいきスマイル」を再確認し、行動を広げるための取組を行う。

- ① 各学級で話し合い、「あったかハート宣言」を決定する。



〈あったかハート宣言〉

- ② 児童会集会で各学級ごとに宣言を発表し、学校内に掲示する。
- ③ 「あったかハートの木」作成に向けて、「あったかハートのポスト」を設置し、親切にしてもらったことやうれしかったことをカードに書いて投函する。
- ④ 代表委員会で児童会役員がカードを整理し、「あったかハートの木」を完成させる。
- ⑤ 人権集会で校長が「あったかハート、いきいきスマイル」についての講話を行い、周知を図る。

(2) 縦割り活動による「読み聞かせ」

高学年が低学年の子どもたちに読み聞かせを行う活動は、本校の縦割り活動の取組の中で「あったかハート、いきいきスマイル」が児童の活動として息づく時間である。

- ① 年間3回の計画で、6年→1年、5年→2年、4年→3年などの組み合わせで読み聞かせを行う。時間は業間の休み時間。場所は読み聞かせをしてもらう学年の教室。
- ② 高学年児童は、低学年児童がどんな本を喜ぶか思い巡らしながら絵本を選ぶ。その絵本を読む練習も業間に行われ、聞く人が分かりやすい朗読を工夫する時間でもある。
- ③ 実際に読み聞かせをしている教室に入ると、一人一人が思いを込めて朗読する声、気持ちよさそうに聞き入る低学年の顔であふれ、教室中の空気が「あったかハート、いきいきスマイル」で満たされている。



(3) 縦割り活動による団別清掃の取組

昨年度の3学期から、各学年ごとに行っていた昼休み後の清掃(15分間)を団別の縦割りに変更した。5・6年生の高学年児童が、班長、副班長としての責任を自覚し、下級生にお手本を示しながらの清掃活動を行うことでリーダーシップを発揮させることが目的。

- ① 高学年の児童が自己存在感を感じたり、自己決定を行える場を清掃の時間に位置づけたことで、教職員がそのがんばりやよさを褒める場をつくることができた。
- ② 朝礼でも、「心磨き清掃」の話をする中で、おしゃべりを我慢し、友達と協力して、時間一杯掃除場所を見つけることの大切さを理解させた。教職員も一緒になって毎日の清掃を行うことで、子供たちがお互い協力しながら一生懸命に清掃活動に取り組むようになった。



4 おわりに

人権教育指定の成果を生かし、課題解決に向けた改善を加えることで、子供たちが主体となった積極的な生徒指導を進められるようになってきた。

それを通して、自分の大切さと共に、相手の大切さを認めることができ、落ち着いた、共感的な温かい雰囲気の中で生活することができるようになってきた。

今後も授業はもちろん、全教育活動を通して、意図的・組織的な取組を行うことで、子供たちの行動として「あったかハート、いきいきスマイル」がたくさん現れるような学校経営を目指したい。

〈2〉中学校

自己有用感をはぐくむ教育活動を通じた生徒指導の充実

みなかみ町立藤原中学校長 堀江 英也

1 学校の概要

本校は、県北部の谷川岳・朝日岳・至仏山・武尊山など2000m級の山々に囲まれ、藤原・奈良俣・八木沢などのダムのある利根川の源流に位置する大自然に囲まれた地域にある。また、標高750m地点に校舎はあり、校庭の積雪量が2mを超える豪雪地帯でもある。

昭和27年に藤原ダム建設が着工してから人口は急増し、昭和29年度の生徒数は276名に達した。しかし、昭和42年に八木沢ダムが完成すると、その2年後には、多い時で50名が通っていた湯の小屋分校が廃校となり、ダム建設と営林事業、観光資源開発で賑わいを見せた藤原地区の人口も流出し、生徒数は減り続けた。

平成20年度からは、藤原小学校との併設校となり、小中で職員室を共有している。今年度は児童数13名、生徒数8名の計21名。教職員数は小中合わせて19名である。小中併設校には、小中連携や一貫教育の目的と共通するよさがあり、職員は互いの授業研究会や兼務授業を通して児童生徒理解を深め、学びの連続性を意識した授業を日々実践している。このことが、本校における生徒指導の充実に大きな効果を発揮している。

2 生徒指導の方針

(1) 学校経営の方針

笑顔に満ちた学校の創造『一人一人の生徒に寄り添った温かさのある生徒指導』を目指す。

- ① 常に組織を意識した教育活動を推進する。（「報告・連絡・相談・確認」の徹底）
- ② 小中併設校のよさを生かした教育活動を推進する。
- ③ 一人一人の生徒を大切にしたい教育活動を推進する。
- ④ 地域に開かれた教育活動を推進する。

(2) 生徒指導の方針

生徒が自主的に判断・行動し、積極的に自己を生かしていくことで、自己有用感をはぐくむ教育活動を推進する。

- ① 少人数のよさを生かし、生徒が活躍できる場면을意図的・計画的に設定する。
- ② 事前指導を十分に行い、生徒の達成感や成就感を味わわせる。
- ③ スクールカウンセラーと連携し、生徒一人一人への教育相談を充実させる。

3 自己有用感をはぐくむための具体的な取組

(1) 小中併設校のよさを生かした取組

小中の教職員が小中併設校のよさやその目的を共通理解し、互いに情報を共有し、9年間を見通した生徒指導を心がける。

- ① 児童生徒の様々な情報を共有し、共通理解した上で指導する。
 - ・小中別の職員会議後に小中合同の職員会議で情報を共有することで、中学校入学直後の指導や兄弟姉妹に関連する家庭の状況を把握でき有効である。
 - ・小学校から中学校への生徒理解のための資料の引き継ぎや元担任からの適切な指導助言が得られやすい。

② 異年齢交流で自己有用感を高める。

- ・小中合同朝行事を実施し、小学生との交流を深めることで信頼関係がはぐくまれる。
- ・委員会活動での小学生への指導を通して、自己有用感を得ることができる。
- ・運動会の団対抗での取組の中で、日常的な異年齢交流の成果が発揮されている。



中学生による読み聞かせ

(2) 少人数のよさを生かした取組

小規模校であることのメリットを最大限に生かし、生徒への指導を充実させる。

- ① 一人一人の学習や生活の状況を的確に把握し、個別指導を含めたきめ細かな指導を行う。
- ② 様々な活動において、一人一人が代表として活躍できる機会を設定する。
 - ・生徒会活動や学校代表活動に全生徒を意図的に経験させている。
- ③ 3学年一緒に学習活動を組み、機動力を生かした体験学習や校外学習を実施する。
 - ・総合や保健体育など学校全体で異年齢活動や協働学習を年間を通じて計画的に実施している。



毎年参加の英語弁論大会

- ④ スクールカウンセラーと連携した全員の生徒への面談を実施する。

(3) 地域の教育力を生かした取組

地域の協力を得られやすいため、郷土の教育資源や人材を生かした教育活動を推進する。

- ① 学校支援センターを活用した外部講師による効果的な学習活動を推進する。
 - ・総合、国語、技術科、家庭科などの外部講師による専門性を生かした授業を実践する。
- ② 保護者や地域と連携した効果的な生徒指導を実施する。
 - ・区長、民生児童委員、青少推、駐在所との教育懇談会の開催を通じた連携を強化する。

(4) デメリットの解消

小規模校であることのデメリットを解消したり、緩和したりする方策を講じる。

- ① 社会性を涵養する機会や多様な意見に触れる機会を確保する。
 - ・旧町内にある水上中学校との年2回の交流授業を実施している。
 - ・上級生がリーダーとなり、異学年集団での協働学習や体験学習を実施している。
- ② 切磋琢磨する態度や向上心を高めるための取組を行う。
 - ・少年の主張、英語弁論大会、小中学校音楽祭、郡市合同陸上大会、郡駅伝大会などに積極的に参加し、他校の同世代生徒の姿を意識させ、次年度につなげる指導を行う。



水上中と音楽の交流授業

4 おわりに

朝、熊鈴の音を響かせながら子どもたちが仲良く登校してくる姿は、本校の生徒指導を象徴している。体育的行事や奉仕活動など合同で実施する行事が多く、異年齢交流が盛んであり、一人一人が役割をもち、認められ、自己有用感がはぐくまれ、良好な人間関係が形成されている。そのため、生徒指導にかかわる問題行動は見られない。9年間を見通してのこれらの取組は、本校の生徒に生きる力を着実に身に付け、地域に見守られながら、今日も元気に仲良く登校している。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



～第 64 回群馬県へき地教育研究大会 全体会～

I 平成27年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

長野原町立応桑小学校長 埴田 栄一

1 平成27年度へき地学校教育

平成27年度の県内のへき地学校は、休校中の2校を含め39校、児童生徒数3,071名、教職員数459名である。へき地学校の児童生徒数に占める割合は、県内全体の1.9%で、昨年と比べると学校数は5校減、児童生徒数で413名減、教職員は64名減である。

へき地教育研究連盟としては、昨年度の第63回全国へき地教育研究大会群馬大会の成果と課題を受け、へき地学校・へき地小規模校の利点や地域との緊密な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身につける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

2 活動方針

- (1) 研究主題「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」
- (2) 運動方針
 - ① 本連盟は群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
 - ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
 - ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。
- (3) 活動内容
 - ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。
 - ② へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教育に携わる教職員の資質の向上を図る。
 - ③ へき地教育研究大会を群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。
 - ④ 群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

3 研究、研修の概要

- (1) へき地教育ブロック別実践研究集会の開催
 - ・ Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽）8月3日（月）講演会、パネルディスカッション
 - ・ Bブロック（吾妻）8月6日（木）全国へき地教育研究大会群馬大会報告、講演会
 - ・ Cブロック（利根・沼田・渋川）8月19日（火）講演会、現地研修会
- (2) 関東甲信越へき地教育研究連盟 研究協議会への参加 8月5日（水）新潟県新潟市
- (3) 第64回全国へき地教育研究大会熊本大会への参加 10月15日（木）～16日（金）
- (4) 第64回群馬県へき地教育研究大会 11月10日（火）Bブロック開催 吾妻郡：中之条町ツインプラザ
- (5) 広報「県へき連」第78、79号発行
- (6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第64集発行

Ⅱ 第64回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

- 1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。



- 2 テーマ ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校・
学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

- 3 期 日 平成27年11月10日（火）

- 4 会 場 中之条町ツインプラザ 大会議室・研修室

5 日 程

10:00 10:20 10:50 12:00 13:00 14:10 14:30 16:00 16:10

受付	開会行事	全体会 ・全へき連等、 確認報告 ・群馬大会総括	昼食 ・ 休憩	班別研究協議 ・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校	休憩 ・ 受付	講演会	閉会行事
----	------	-----------------------------------	---------------	------------------------------------	---------------	-----	------

6 開会行事

7 全体会

- (1) 全へき連、関ブロ、県へき連報告確認等
- (2) 全国へき地教育研究大会群馬大会総括

8 班別研究協議

	司 会	提 案	記 録	世話係	指導助言	場所
小学校 Ⅰ班	吾妻：高山小 校長 山口 廣	吾妻：草津小 校長 柴崎 弘光	吾妻：北軽井沢小 校長 蜂須賀克明	吾妻：応桑小 校長 埴田 栄一	吾妻教育事務所 指導主事 一場 民人	研修室 1
小学校 Ⅱ班	吾妻：坂上小 校長 中沢 雅紀	多野：上野小 校長 黒澤栄生子	多野：万場小 校長 黒澤 守	吾妻：六合小 校長 富沢 正	西部教育事務所 指導主事 長谷部秀樹	研修室 2
中学校	利根：片品中 校長 小野 和好	沼田：利根中 校長 今井 浩	沼田：多那小・中 校長 中島 誓子	利根：藤原小・中 校長 堀江 英也	利根教育事務所 指導主事 内藤 麗子	研修室 3

9 講演会

- (1) 講師：板端 三山
- (2) 演題：講談…電子紙芝居バージョン「岩櫃いわびつたけやま高山合戦記」

10 閉会行事

〈2〉提案要旨

《小学校1班》

進んで学び、高め合える児童の育成

～ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業実践を通して～

草津町立草津小学校長 柴崎 弘光

1 学校の概要

本校は、温泉等の観光資源を生活の糧としている草津町の唯一の小学校である。標高は1,200m前後であり、前口地区(バス通学)以外の児童は、徒歩での通学をしている。

児童数は275名であり14学級からなる。吾妻郡では2番目の規模にあたる。スキーや野球等の地域のスポーツ少年団に多くの児童が加入していて、明るく元気な児童が多い小学校でもある。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

今年度、群馬県の指定校「特別支援教育エリアサポートモデル校事業(1年間)」として、通常学級における発達障害等を抱えた児童への指導・支援の工夫を中心に研究を進めている。また、昨年度まで研究を進めてきた「個・集団の学びの向上」も関連させて継続的な研究を進めることで、どの子にも「分かる」「できる」授業づくりへと結び付けている。

具体的には、「分かること」への指導の工夫や環境整備。誰もが参加し達成感を味わえる指導の工夫である。これらにより意欲的な学習態度や集団の学びも高まると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① エリアサポートモデル校事業(1年間の指定研究)における実践

今年度の指定校としての実践は、「6つの視点」で発達障害等の理解を進めたり、課題を抱える児童への指導・支援の工夫等を研究している。様々な角度からの研修で理解等を深めている。

- ・学校サポート：児童の特性に応じた指導の工夫や環境整備等を通常学級の担任に助言する。
- ・全ての教員研修：講義や研修等から発達障害等に関する知識・理解・対応等を理解する。
- ・専門性向上研修：講師等も含めた「ケース会議」にて個別支援を深めたり、指導力を高める。
- ・障害理解教育：講話、道徳、特別活動等、学年別の実践で児童自身の障害・対応理解を深める。
- ・保護者向け研修会：家庭での子育ての工夫・支援の話聞くなどして保護者の理解を深める。
- ・専門性向上検討会議：管理職や研究担当者の専門的な知識・理解を高める。

具体的には、月に1～4回の範囲内で、県・郡の指導主事(サポーター)が2名来校して、「学校サポート」「子育て講話」等を中心にし、上記の各項目を組み合わせながら研修を進めている。

② 校内研修における実践

「誰でも、分かる、できる授業づくり」を合言葉にして、上記の指定研究も関連させながら、下記の2つの視点から「授業実践・改善」「授業研究会」「ブロック別研修」等を進めている。

- ・全校の共通実践：一人1授業を通して、児童の視点での「わかる・できる授業」を実践する。
- ・ブロック別研修：各発達段階に応じた指導・教材・教具の工夫など、3ブロックで研修する。

③ その他の実践

管理職の授業参観と助言、草津小学力向上スタイルの構築など、全校体制で実践研究を進める。

3 まとめと今後の課題

児童の落ち着きのある集中した学習が進み、自主的な学習態度も増えてきた。また、児童の発達障害や特性の違い等への先生方の理解も進み、児童の状況に応じた授業・指導が展開できている。

本年度の研修内容を継続的・組織的に取り組み、更に改善を進めることが今後の課題である。

《小学校 2 班》

自信をもって自分の思いや考えを表現できる心豊かな児童の育成

～マリーゴールド学習を通して～

上野村立上野小学校長 黒澤 栄生子

1 学校の概要

本校のある群馬県上野村は、南は埼玉県、西は長野県に接する標高450m以上の急峻な山村である。地域の人は学校との距離が近く、関わりが緊密で総じて学校に協力的である。今年度、本校の児童数は54名で、3，4年が複式学級のため、特別支援学級1を含め、全6学級であるが、複式解消非常勤講師の導入により、3，4学年もほとんど学年単位での授業を行っている。また、上野村では山村留学制度を取り入れており、指導員の下で小中学生が共同生活をしながら、村内の小中学校へ通っている。今年度、上野小は8名の村外からの児童を受け入れている。

2 主題設定の理由

本校児童は、男女を問わず仲がよく、優しい子が多い。素直で課題や仕事にまじめに取り組む。一方で、大人数の中でもまれる体験が少なく幼さが見られ、感動や優しさを表現し伝えることが苦手である。自信をもって積極的に発言・行動することが少ない面もある。

上野村には、30年前の日航機墜落事故の犠牲者を祀る「慰霊の園」があり、そこに献花するために児童が毎年マリーゴールドを育てている。児童が体験活動を通して自分の思いを確認し表現できる場として、マリーゴールド学習を活用し、自信をもって自分の思いを表現したり行動したりできる心豊かな児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

3 実践の概要

- (1) S W O T分析による実態把握と目指す児童像の確認、目指す児童像に近づける手立ての検討
- (2) 児童会担当・人権担当・管理職によるマリーゴールド学習の計画の見直し
- (3) マリーゴールド学習の実践
 - ① 児童会役員のリーダーシップ育成
 - ② 縦割り班活動の中で高学年、特に6年生のリーダーシップ育成
 - ③ 学校行事のマリーゴールド学習との関連づけ
 - ④ 活動後に振り返りの時間をもち、自分の気持ちを見つめる場を設けることで児童の心の成長を促した。

4 まとめと今後の課題

成果としては、次の3点が挙げられる。

- (1) 慰霊登山の帰りに慰霊の園に飾られたマリーゴールドを見たり、式典で飾られている様子を児童会役員から聞いたりして、自分たちが育てたマリーゴールドが役立っていることを実感し、自己有用感が高まり、積極的に取り組んでいる様子が作文等に表れている。
- (2) 児童会役員を中心に6年生児童が積極的に発表する姿や自信をもって下級生の面倒を見る姿が見られた。
- (3) 慰霊登山やマリーゴールドを育てる体験を通して、命の大切さにより実感を伴って気付いた児童が増えた。

課題として、指導者も含めて、慰霊式典やマリーゴールド献納の歴史や意味をきちんと伝えていくことが大切であるということと、上野中や地域の方との連携・協力をさらに深める、ということが挙げられる。

《中学校班》

学校の特色を生かした教育活動の推進

～地域・高校との連携を生かして～

沼田市立利根中学校長 今井 浩

1 学校の概要

本校は平成9年度に東中と南郷中の統合により開校、平成17年の沼田市編入により現在の校名になっている。全校で3学級、93名の学校であるが、今後さらに生徒数の減少が見込まれている。全体的に素直でまじめな生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で、「めざせ日本一の学校」を生徒会のスローガンとして、毎朝、「ハイタッチあいさつ運動」を実施するなど、よりよい学校生活づくりに積極的に参加している。また、校区内にある群馬県立尾瀬高等学校とは、片品村立片品中学校とともに平成15年度より連携型中高一貫教育校として連携を図っている。

2 主題設定の理由

本校の大きな課題は、生徒数の減少ということである。学校では、この現状をマイナスととらえるのではなく、プラスと考え、少人数だからこそできる教育を進めていくことが大事である。

沼田市利根町の現状としては、若者の地域離れということが大きな課題である。高校や大学等へ進学したあと、地元に戻ってこない場合が非常に多い。そのためにも地域のよさや特色を学んだり、授業の中で地域の資源や人材を活用したりすることを積極的に行い、地域に根ざした教育活動を進め、地域を愛する心を育てていくことは非常に重要である。

3 実践の概要

(1) 沼田市の全小中学校で取り組んでいる「沼田大好き！ふるさと学習」

全教育活動を通じて、地域の特色を生かした授業や行事を創意工夫し、3年間で継続的・体系的に地域について学び、「郷土を深く理解し、深く愛し、郷土に誇りをもつ生徒」の育成を図っている。総合的な学習の時間においては、地域の教育力を生かし、1年生は「農業体験」、2年生は「環境学習・職場体験」、3年生は「郷土学習」を行っている。

(2) 連携型中高一貫教育のもと、尾瀬高校との交流活動

連携型中高一貫教育の指定を受け、尾瀬高校と様々な面で連携を図り、実践を進めている。各教科においては、基礎学力の向上と学習意欲の高揚を目的に教科の連携を図り、高校の教員が中学校において交流授業を行っている。また、「中高自然観察会」、「中高環境講座」と呼ばれる交流活動を行い、武尊山や学校周辺の自然について高校生から学び、地域の素晴らしさを実感させ、郷土を愛する心の育成を図っている。

(3) 地域との関わりの中で進める教育活動

秋季大運動会を利根町の体育祭と合同で開催し、準備や運営などを地域の人たちと協力して実施したり、「環境ボランティア」「学校周辺整備活動」を地域や保護者と協力して行ったりするなど、いろいろな場面で地域・保護者の協力をいただき、活動を行っている。そのような中で、地域の人々に感謝する心を育てたり、地域を愛する気持ちを高めたりしている。

4 まとめと今後の課題

地域や高校との関わりの中で教育活動を進めていくことは、生徒に地域への愛着を持たせるのと同時に、地域の方々の学校への愛着をさらに深めることにも大変大きな役割を果たしている。今後の課題としては、現在行われている活動の工夫・改善を図っていくことが大事である。特に教科指導の中で地域の人材活用を図っていききたい。そのためにも学校支援センターを整備し、計画的に、能率的に進められるようにしていきたい。

Ⅲ へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽）

- 1 趣 旨 地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、職員の研修を深め、資質の向上に資する。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 高崎市教育委員会
- 4 期 日 平成27年8月3日（月） 9：30～12：00
- 5 会 場 高崎市立倉渕小学校 南校舎1F多目的室
（所在地 高崎市倉渕町権田314-1）
- 6 参加者 高崎市、安中市、甘楽郡、多野郡のへき地小中学校教職員（10校 約90名）
- 7 日 程
- (1) 受付 9：30～9：45
- (2) 開会行事 9：45～10：00
- ① 開会の言葉 高崎市立宮沢小学校長 山田 久徳（全体の進行を兼ねる）
- ② 会長挨拶 高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭
- ③ 来賓挨拶 高崎市教育委員会教育長 飯野 眞幸 様
- ④ 日程説明 安中市立細野小学校長 本多 利幸
- ⑤ 閉会の言葉 （進行）
- (3) 全体会 10：00～11：00
- ① 講師紹介 高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭
- ② 講話 演題「いじめ防止対策推進法と児童生徒の人権保護」
～へき地学校の実態を踏まえて～
群馬弁護士会所属 弁護士 吉野 晶 様（法律事務所コスモス）
- (4) パネルディスカッション 11：00～11：45
「いじめ防止対策推進法と教職員の意識改革」
パネリスト 群馬弁護士会所属 弁護士 吉野 晶 様
高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭
高崎市立倉渕中学校長 黒崎 高行
- (5) 謝辞 高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭



8 まとめ

いじめ防止対策推進法が平成25年に施行され、「いじめから子どもたちの命を守る」ために法的責務のうえに対策を講じることが学校に義務づけられ、本法を拠り所とした対策や行動をより具体的・計画的に進められることが求められている。へき地校に通学する児童生徒は、幼い頃から同一の学年集団で生活することが多く、まとまりやすい反面、いじめが起こると保護者まで含めて解決がより困難になりかねない。講話にあったように、「仲良しグループ」には「いじめの罠」が潜み、教職員による相談体制の整備状況と事実確認の程度や対応の詳細が法的に問われるようになる。定期的なアンケート調査や日常的な記録等による事実の集積をしていくこと、全児童生徒を含めた未然防止に向けた指導體制を整備していくこと、教職員の同僚性を高めて組織的で計画的な対応をしていくことも本法が求めていることが理解された。本法が求めるいずれの要件も整備しやすい環境にあると思われるへき地校から、いじめ防止に向けた実践的対応の一層の充実を目指したい。

（文責 高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭）

〈2〉Bブロック（吾妻）

- 1 趣 旨 吾妻地域の実態に即した、へき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 吾妻郡へき地教育研究会 吾妻へき地教育センター
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 期 日 平成27年8月6日（木）
- 5 会 場 中之条町「ツインプラザ」 交流ホール
- 6 参加者 吾妻郡へき地学校教職員他 90名

7 日 程

(1) 受付 13:30～13:50

(2) 開会行事 14:00～14:10

① 開会の言葉

② へき地教師の歌斉唱

③ 挨拶 吾妻郡へき地教育研究会長 富沢 正

④ 来賓挨拶 吾妻教育事務所長 茂木 一弘 様
郡へき地教育担当教育長 黒岩 優行 様（孺恋村教委）

(3) 報告 14:10～14:30

平成26年度全国へき地教育研究大会群馬大会を振り返って

発表者 群馬大会実行委員長 吉野 隆哉 様

～休憩～ 14:30～14:40

(4) 講演会 14:40～16:10

① 演題 「南極の氷に触れて」

② 講師 ミサワホーム株式会社 坂下 大輔 様
(第51次・52次・55次日本南極地域観測隊員)

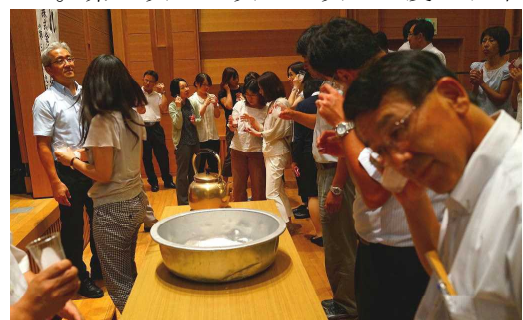
(5) 閉会行事 16:10

8 まとめ

前半は「平成26年度全国へき地教育研究大会群馬大会を振り返って」と題して、吉野隆哉実行委員長（片品小学校校長）が概要やアンケートの結果を基に大会報告をしてくれた。吾妻郡では5校の分科会が開かれたことへの感謝の言葉もあった。また、全へき連（吉野隆哉実行委員長は、今年度全国へき地教育研究連盟会長を務める）からの最新の情報を提供してもらった。

講演会はミサワホーム株式会社、坂下大輔様をお願いした。第51次・52次・55次と三度の日本南極地域観測隊員としての経験・体験を、南極観測の意義に触れながら、映像を通して伝えてくれた。「南極を調べることは地球を調べること」「チームの中で何をやったら喜んでくれるのかを考えていた」等、示唆に富む話を聞くことができた。また、南極から持ち帰った氷に触れたり、気泡が放出されるプチプチという音（右写真：コップに耳を近づける）を聞いたりすることができた。猛暑の中の講演会であったが、終了の頃には脳内がすっかり涼しくなっていた。

（文責 中之条町立六合小学校長 富沢 正）



〈3〉Cブロック（利根・沼田・渋川）

- 1 趣 旨 利根郡・沼田市・渋川市へき地小中学校に勤務する教職員が、へき地の特性を生かす教育について研究するとともに、群馬絹産業遺産関連の永井紺周郎・いとの業績について現地研修し、教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 利根・沼田・渋川へき地教育研究会
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 片品村教育委員会
- 4 期 日 平成27年8月19日（水）
- 5 会 場 片品村立武尊根小学校（体育館）及び針山：永井家（養蚕伝習所）
- 6 参加者 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小中学校に勤務する教職員
- 7 日 程
- (1) 受付 8：30～8：45
- (2) 開会行事 8：45
- ① へき地教師の歌「太陽となろう」
- ② 挨拶
- ・へき地Cブロック会長 中野 敬造（平川小学校長）
 - ・片品村教育委員会教育長 星野 準一 様
- ③ 日程説明・諸連絡 林 加寿郎（担当校教頭）
- (3) 講演 9：00～10：30
- ① 講師紹介 ブロック別実践研究集会担当校 片山 雅資（武尊根小学校長）
- ② 講演
- 演題 「いぶし飼い」紺周郎と「かかあ天下」いと ～日本の絹産業の礎を築いた二人～
- 講師 片品村社会教育委員 笠松 亮 様
- (4) 休憩移動 10：30～11：00
- (5) 現地研修 11：00～11：50 永井家養蚕伝習所
- 講師 永井 留治 様
- (6) 閉会行事 11：50
- 講師へのお礼の言葉 ブロック別実践研究集会担当校 片山 雅資（武尊根小学校長）
- (7) 解 散 12：00

8 まとめ

今年度のCブロック実践研究集会は、片品村教育研究会フィールドワーク研修会と兼ねて実施した。講演会では、笠松亮様に、片品村が誇る養蚕指導の先駆者である永井紺周郎と「いと」の業績について講演をいただいた。二人が、それまでの蚕の飼育方法の常識を覆す飼育法「いぶし飼い」を確立するまでの経過やその飼育法を県内各地の多くの人に広めた功績について詳しく説明していただいた。「いと」は、平成27年度より文化庁の認定する「日本遺産」《かかあ天下ーぐんまの絹物語》の代表的存在とされる人物です。その後、紺周郎から四代目に当たる永井留治様に現地の「永井流養蚕伝習所実習棟」などの絹産業遺産について解説を伺った。永井家の功績の偉大さを改めて感じた講演会であった。



（文責 片品村立武尊根小学校長 片山 雅資）

IV 第64回全国へき地教育研究大会（熊本大会）

〈1〉概要報告

高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭

第64回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、熊本県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成27年10月15日(木)～16日(金)の2日間にわたって熊本県熊本市を中心に開催された。1日目は、熊本市の市民会館崇城大学ホールを会場に、全国のへき地・小規模校・熊本県内各学校の総数およそ1,100名が参加し盛大に開催された。本県からは、校長・教諭・県教育委員会指導主事の8名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国第8次研究推進計画研究課題別6つの分散会が開かれた。2日目は、12の小中学校で公開授業が行われ、その後各分科会場で各地区の研究発表や熱心な協議が行われた。

第1日（10月15日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、熊本大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として文部科学省初等中等教育局教育課程課長、熊本県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長（片品小学校 吉野隆哉先生）の挨拶があり、熊本県知事、熊本市長から来賓代表の祝辞をいただいた。

基調報告では、まず全国へき地教育研究連盟研究部長から、第8次長期5か年研究推進計画(平成26～30年)の概要説明があり、続いて熊本大会研究部長から、熊本大会主題「ふるさとに誇りと愛着を持ち、人間力豊かに時代を牽引する子どもの育成～三特性を生かした学校・学級経営と学習指導の工夫をとおして～」、大会スローガン「発信！ 火の国熊本から 新時代の教育を！！」をもとにした熊本県の取組に関する報告、分科会場校の紹介がなされた。

講演は、「人を育てる、人に育てられる～柔道を通して学んだこれからの生き方～」と題して、東海大学理事・副学長、全日本柔道連盟副会長、認定NPO法人柔道教育ソリダリティ理事長である山下泰裕氏の話があった。

講演終了後、次回開催地である青森県へき地・複式教育研究会櫻田会長より挨拶があり、青森県へき地・複式教育研究会研究部長が、分科会会場の紹介を行った。最後に熊本県へき地・小規模校教育研究連盟事務局長より青森県へき地・複式教育研究会事務局長へ大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

アトラクションとして、阿蘇市立波野中学校神楽クラブによる「八雲弘」が披露された。

午後は、全国第8次研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、九州ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

第2日（10月16日）「授業公開・分科会」

2日目の前半は、熊本県下の12小中学校(A南小国町立中原小学校、B阿蘇市立波野小学校、C阿蘇市立波野中学校、D南阿蘇村立両併小学校、E山都町立蘇陽小学校、F八代市立泉小学校・泉中学校、G五木村立五木東小学校、H五木村立五木中学校、I山江村立万江小学校、J芦北町立大野小学校、K上天草市立維和小学校、L上天草市立維和中学校)で、それぞれ2～6授業、計39の授業が公開され、その後A～Lの12分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉分散会報告

第3分散会

地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進を図る

上野村立上野小学校教諭 高野 真史

1 【全国ブロック】群馬県上野村立上野小学校の発表概要

(1) 研究主題 「自信をもって自分の思いや考えを表現できる心豊かな児童の育成」

～マリーゴールド学習を通して～

(2) 主題設定の理由

上野村には、30年前の日航機墜落事故の犠牲者を祀る「慰霊の園」があり、そこに献花するために児童が毎年マリーゴールドを育てている。児童が体験活動を通して自分の思いを確認し表現できる場として、長年続けられてきたマリーゴールド学習に着目した。目指す児童の姿は、体験を通して自分の思いや考えをもち、自信をもって表現したり行動に移したりできる心豊かな児童である。このような児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(3) 実践の内容

マリーゴールド学習を軸にして、特色ある活動として次のような具体的な実践の場を設定して取り組んだ。

① 児童会活動（種まき集会、植え替え集会、引き渡し式等）

② 地域学習（慰霊登山、慰霊の園見学等）

2 【九州ブロック】沖縄県座間味村立阿嘉小中学校の発表概要

(1) 研究主題 「人や自然を大切にする「阿嘉っ子の育成」

～地域の特性を活かした体験活動を通して～

(2) 主題設定の理由

進学・就職と生活環境が大きく変わる子どもたちにとって、どのような環境におかれても自分に自信をもち、生まれ育った阿嘉島を誇りに思い、生き生きと活動できる豊かな人間性を育てたいと考え、本主題を設定した。

(3) 実践の内容

<小学校> ・「サンゴの産卵鑑賞会」「サンゴの生態についての講話」「海の危険生物についての講話」「イノーの生き物観察」など海の生き物の研究。

・「阿嘉島の旧道、山歩き」で阿嘉島の昔の暮らし体験、「ケラマ鹿の生態研究」「野鳥の生態研究」

<中学校> ・「ダイビングについての安全指導」「体験ダイビング・サンゴの移植」

3 所感

学校全体でマリーゴールドやサンゴ礁という地域独自の素材を教材化すること、小中一体となって取り組むことができるのは、へき地教育ならではの優位性である。両校とも、学校と地域が連携協力して子どもたちを育成していると感じた。上野小の発表からは、教師が児童に責任をもち、児童を信じる姿勢で見守る姿勢の大切さが改めて確認された。また、児童が文章で気持ちを表すことで、自分の変容を実感できるようになっていることも豊かな心を育む手立てとして有効であった。阿嘉小中学校では、地域の方がPTAと一緒に学校教育に協力を惜しまず、自然環境・人的環境ともに豊かな中で子どもを育成している。自然体験を通して人や自然を大切にする心を育てていると感じた。

なぜ地域の素材で学習するのか、何を子どもに伝えていくのかを教師自身が意識し、それを継続することが、「地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心」を育むポイントではないだろうか。

〈3〉分科会報告

B分科会

小中連携による21世紀型の能力の育成

～9年間を通じた学力向上システムの構築を中心に～

沼田市立平川小学校長 中野 敬造

1 会場校 阿蘇市立波野小学校（学級数7 児童数57名 職員数13名）

2 地域・学校の概要

学区は世界最大のカルデラを取り巻く阿蘇外輪山東部に位置し標高は600mから900mの高原地帯にある。年間平均気温は11.2℃で大変過ごしやすい気候であるが、冬は積雪が多く寒さも厳しい。波野小学校は、旧波野村地区4小学校と1分校が統合して17年目を迎える。全校児童は57名で、明るく素直で元気であるが、表現力やコミュニケーション能力に課題がある児童が多い。隣接する波野中学校とは渡り廊下でつながっており、小中合同運動会などの各種行事を連携して行い、中学校教員の小学校高学年での乗り入れ授業、小中合同での校内研修等にも一昨年度から取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 仮説1：発達段階に応じた言語活動を効果的に設定し、充実させれば、21世紀型における思考力を身に付けることができるであろう。
- ② 仮説2：校種・学年をまたぎ基礎的リテラシーを学び直し、互いに学び合う場を設ければ、21世紀型能力における基礎力を身に付けることができるであろう。
- ③ 仮説3：9年間の学びを体系化するとともに、学びを生かす場として異年齢集団による地域の活動を設定、実践することによって、21世紀型能力における実践力を身に付けることができるであろう。

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 【英会話】3年 「くだもので遊ぼう」
※平成26年度より教育課程特例校として小3～6年まで英会話科を創設
- ② 公開授業Ⅱ 【算数】6年 「速さの表し方を考えよう」

4 所感

阿蘇市立波野小学校は、隣接する波野中学校と協力し、小中連携によって9年間を見通した教育活動を具体的に実践していると感じた。波野小中学校では、校内研究を小中合同で推進し、21世紀型能力の育成を主題とし、9年間を通じた学力向上システムの構築に取り組んでいる。特に目をひいたのは、SUT (step up time)の取組である。毎週1回放課後、ランチルームに小学校4年生から中学校3年生が集まり学習する。前学年に学習したことを復習させ、基礎力を確実に定着させることを目的としている。中学生と小学生と一緒に学習することにより、小学生はわからないことを聞くことができ、中学生はわかりやすく伝える能力を伸ばすことができる。

「授業づくり」でも小中で取り組んでいる。特に参考になったのは、文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒に関わる実態調査」を活用した授業のユニバーサルデザイン化である。全児童生徒にこの調査を実施し、だれもが授業に参加し、理解できるような授業展開を考えていこうとするものである。授業公開でも黒板に手順を示したり、発言の苦手な子に適切なフォローをしたりして、実際に活かされていた。1クラス10人前後のクラスのよさを十分活かしているように思った。

E 分科会

ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童の育成

～くらしを見つめ、学びをつなぐ「そよっ子のふるさと学習」を通して～

上野村立上野小学校長 黒澤 栄生子

1 会場校 山都町立蘇陽小学校（学級数7 児童数77名、職員数16名）

2 地域・学校の概要

山都町は熊本県の東部にあり、校区は標高500～600mの位置で、阿蘇南外輪山麓の高原地帯に属する。人口約16,524人で、水路橋としてユネスコ世界灌漑遺産及び国の重要文化財に指定されている通潤橋がある。縄文・弥生時代の高阜乙の原遺跡をはじめ、各時代の遺跡や遺物が数多くある。1級へき地指定校で、本年度の全校児童数は77名、学級数は単式6，特支1の計7学級である。児童は、総じて明るく礼儀正しく、活動にまじめに取り組む。

3 研究の概要

(1) 研究課題・内容

- ① 児童の「課題」を大切にしてくらしを見つめ学びをつなぐ授業構成を工夫することで、ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童を育成する。
- ② 児童の「思い」を伝え合い、互いの考えをゆさぶり、深め合うための手立てを工夫していくことで、ふるさとを大切に、進んで考え行動できる児童を育成する。
- ③ 学校と家庭・地域社会が連携・協力できる体制づくりや取組を計画的・継続的に実践していくことで、ふるさとを大切に、進んで行動できる児童を育成する。

(2) 研究の実際

- ① 総合的な学習を中心とした他教科等との横断的な単元の位置づけ。学習過程。地域学習。
- ② レッツトークタイム。交流活動（クイズ、インタビュー等方法や場の工夫）。ゲストティーチャー（GT）の活用。
- ③ 専門性を生かした授業への協力（GT）。中学校区共通「学びのすすめ」。老人会とのふれあい活動。人材バンクの可視化。

(3) 公開授業

- ① 1校時－2年生活（児童数11名）「わたしの町大すき」（学図）
- ② 1校時－5年国語（児童数19名）「明日をつくるわたしたち」（光村）
- ③ 2校時－4年社会（児童数8名）「きょう土をひらく（さまざまな用水のくふう）」（東書）
- ④ 2校時－6年総合（児童数8名）「見つめようわたしたちのふるさとⅡ

～神楽ってどんなこと～

4 所感

蘇陽小学校では、豊かな自然とともに昔から受け継がれた数多くの文化遺産を活用して「ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童の育成」を目指した実践を積み重ねていた。児童や地域の実態を丁寧に分析し、全職員が一丸となって着実に実践している様子が窺えた。特に、総合的な学習の時間を基盤として、各学年が「ふるさと学習」を1本の柱にして学習を深め、目指す児童像に近づいていくという全体計画が、細部にわたって具体化されていると感じた。

5年生の国語では、単元の最後に自分達の提案書を各区長さんに届ける、という目的があるので書いたりアドバイスをしあったりする活動に児童の意欲があふれていた。4年生の社会では、通潤橋の完成前、完成後、現在の人々の暮らしを考える中で、地域の願いを身近に感じ取っていた。

F 分科会

ふるさとに誇りを持ち、未来につながる力を身につけた子どもの育成

～小中一貫校の特性を生かして～

みなかみ町立藤原小・中学校長 堀江 英也

1 会場校 八代市立泉小学校・泉中学校

(学級数<小>7・<中>4 児童数59名 生徒数41名 職員数<小>18名・<中>19名)

2 地域・学校の概要

泉小学校・泉中学校がある八代市泉町は熊本県の南東部に位置し、総面積266.59kmと広大な面積を有し、山林が町の面積の約94%を占めている。町の東部は九州最後の秘境といわれる「平家伝説の里」五家荘地区である。人口は約2100人で、主要産業は農林業である。特に、茶は古くから栽培され、近年、高品質上級茶の生産に力が注がれている。学校は平成26年度より泉町内の複数の小学校と1つの中学校が一緒になり、施設一体型の小中一貫校となった。「小・中の子どもたちが、小・中の教職員とひとつの学校で、共に学び合う、共に支え合う、共に喜び合う。～ひとつのPTAに見守られながら～」という理念のもと、全職員で9学年の児童生徒を育てていく様々な取組を行っている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

研究を進めるにあたっては、「ふるさと」「授業改善」「日常の取組」の3つの部会を組織し、具体的実践を積み重ねている。

- ① 「ふるさと」泉の人・自然・文化について体験的に学び、伝え合い発信させることで、ふるさとのよさに気づき、ふるさとに対する誇り（郷土愛）や、価値のあるものを大切にしようとする心を育てていく。[いずみ学]
- ② 「授業改善」少人数のよさや小中一貫校の特性を生かして授業形態を工夫し、基礎・基本の徹底を図り、考えを伝え合い、広げ、深め合う場を設けることで、未来につながる（将来に生きて働く）学力を育てていく。

(2) 公開授業

- ① 1校時 小4中2音楽科（小中合同授業）、小5体育科（小中TT授業）
〃 中3総合的な学習の時間（いずみ学）
- ② 2校時 小1小2英語活動（合同授業）、中1理科（小中TT授業）
〃 小6国語科（小中協力授業）

4 所感

小学校4年生と中学校2年生の音楽の授業では、小学校と中学校の音楽の教師2人で教えていた。授業は合唱であったが小学校4年生と中学校2年生が一生懸命に歌う合唱を聴くことができた。小学校5年生の体育の走り高跳びの授業は小学校教師2人と中学校教師1人の計3人で行っており、児童数11名が3班に分かれ、班ごとに教師が1人ついて指導していた。小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒全員で歌う合唱も聴いたがすばらしかった。本校も極小規模校であることから小学生と中学生と一緒に音楽を行うことができると大変参考になった。

G分科会

主体的に生き生きと学び、互いに高め合う児童の育成

～ICTを活用した言語活動の充実を求めて～

高山村立高山小学校教諭 関 幹彦

1 会場校 五木村立五木東小学校（学級数4〈単式2・複式2〉 児童数42名 職員数15名）

2 地域・学校の概要

五木村は、熊本県南部に位置し、周囲を九州山地の1,000m級の山々に囲まれた山間村である。村の主産業は農林業で、「五木の子守歌」で知られる豊かな自然と伝統文化が色濃く残る地域である。五木東小学校は、村内唯一の小学校で、本年度で創立140年目を迎える。ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクトの研究推進校としてICT活用の教育効果について研究を進めている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

目指す児童像に近づくために「学習の見通し」「言語活動の充実」の2つを柱として次のような仮説および研究の視点を立てて研究を進めている。

【仮説1】学習の見通しをもたせる少人数・複式指導を行えば、主体的に生き生きと学ばせることができるであろう。

視点①見通しをもたせる学習活動 視点②主体的な活動の設定
視点③少人数・複式指導の充実 視点④学習の基礎・基本の充実

【仮説2】ICT等を効果的に活用した言語活動を行えば、互いに高め合う学習活動が展開でき

視点①十分な自力解決の場の設定 視点②言語活動場面の設定
視点③ICT機器等の効果的な活用

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 2学年：算数 5・6学年：社会
② 公開授業Ⅱ 1学年：国語 3・4学年：算数

4 所感

今回公開授業Ⅰ、Ⅱで4つの公開授業をすべて参観した。五木東小学校では、すべての学年学級で授業の導入で1時間の授業の流れ（学習内容と学習形態）を児童に具体的に示し説明している。公開授業でも児童一人一人が学習の見通しを持ち、今日の授業で何を身に付ければよいか理解し学習に取り組んでいることを感じた。中・高学年の複式学級でもガイド役の児童を中心に授業がスムーズに進行し、友達と協力して課題を解決していく主体的な学びの様子が見られた。

また、児童一人一人に学習規律がきちんと身に付いていることには感心させられた。「学習作法」として、話の聞き方、発表の仕方等の指導が系統的に1年生から積み重ねられており、児童が安心して進んで発言できる素地を組織的・継続的に創り上げてきた取組がうかがえた。

五木東小学校のICT活用は、児童の言語活動を助けるツールとしての位置付けがなされている。参観した授業では、自分の考えを持つ場面（算数、社会）、協働解決で自分の考えを相手に伝える場面（国語）でタブレットPCと電子黒板が有効に活用されていた。ICTの研究開始より2年目ということであるが、機器の特性を生かし、児童の言語活動を支援し主体性を引き出すツールとして使い方を工夫、開発している様子がうかがえた。私の勤務校でも今年度タブレットPCが導入されたが、参観したことを生かし機器の特性を理解して児童の言語活動の活性化に役立てたい。

H分科会

主体的に学び、考え、表現する自立した生徒を目指して

～学ぶ意欲を引き出す工夫とわかる喜びを意識した少人数指導の実践～

嬭恋村立嬭恋中学校教諭 小幡今朝雄

1 会場校 五木村立五木中学校（学級数4 生徒数20名 職員数13名）

2 地域・学校の概要

五木村は熊本県の南に位置し、九州山地の主脈に連なる標高1,508mの高塚山をはじめ、1,000m級の山々がそびえる極めて急峻な地形にある。五木中学校は平成7年度に分校も含め6校が統合し、統合当時は70人近くいた生徒数も現在では20人まで減少している。校区が四方に広がり山間部が多いことから、ほとんどの生徒がスクールバスで通学をしている。

保護者や地域の方は、学校行事や教育活動に協力的で、芸術・文化活動における様々な分野でゲストティーチャーとして参加している。学校は地域との交流に積極的に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る。
- ② 学習意欲の向上や個に応じたきめ細やかな指導を重視した指導方法の改善・充実を図る。
- ③ 課題意識を持って自ら学び、仲間と共に高め合う学習過程の改善・充実を図る。



（3学年の様子）

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1学年：数学 2学年：音楽 3学年：英語
- ② 公開授業Ⅱ 全学年：総合的な学習の時間

4 所感

公開授業Ⅰでは全学年参観した。1年生の数学では、生徒の興味・関心を高めるようなめあてと問題を提示し、ICT機器や実物投影機を有効に使い、テンポよく授業が進められていた。特に学習を深める場面では電子黒板を使い自分の考えを全体に発表するなど内発的な言語活動を行っていた。2年生の音楽では、ゲストティーチャーの歌と自分たちの歌を比較しながら聴き、曲にふさわしい表現の仕方を工夫する授業内容だった。表現の仕方は個からグループへ、そして、グループごとに発表する中で意見交換を行い深めさせていた。ここでもICT機器を活用していた。3年生の英語では、接触節を用いて身の回りの物事について詳しく紹介することを目標とし、電子黒板やピクチャーカードを用い考えさせ、生徒の持参物・写真等を使うなど学ぶ意欲を引き出す工夫をしていた。

公開授業Ⅱでは3年生の総合を参観した。3年間を通してふるさとについて学んだことを振り返り、五木村の現状と課題を考え、文化祭に向けどのように発信していくかを話し合う授業内容であった。現状と課題について、生徒がどのように考え発表するのか興味があった。生徒なりに自分の住んでいる地域に対してしっかりした考えを持っていたことに感動するとともに、自分の地域を大切にしたいという思いが伝わってきた。

全体を通して、ICT機器（各教室に電子黒板とデジタル教科書、OSが異なるタブレット端末が1人に1台ずつ等）が充実していたことには驚いた。ICT機器はメディアに慣れている生徒の学習意欲を高める手立てとして有効だと感じた。

もう一つ感じたことは、生徒の授業の受け方が素晴らしいということ。それは、五木村の小・中学校が連携して「五木村学習規律」を作成し、児童・生徒の学び方の指導を徹底しているからだと思う。本村もあるが、再認識する必要があることを感じた。

I 分科会

豊かにかかわり合い、学び続ける万江っ子の育成

～ICTの効果的な活用と言語活動の充実を通して～

高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭

1 会場校 山江村立万江小学校（学級数5 児童数44名 職員数12名）

2 地域・学校の概要

山江村は、熊本県南部に位置し豊かな山々に囲まれた自然溢れる山村である。保護者や地域住民の方は学校の教育活動に協力的で、登下校の見守り、読み聞かせなどの学校支援、学校と地域が一体となり取り組んでいる行事もある。

万江小学校は、昭和63年に大川内小学校、屋形小学校、城内小学校、山田小学校尾寄崎分校が統合し新たなあゆみを始めて27年を迎えている。校区も広く、全校児童44名のうち9人の児童がスクールバス（タクシー）で通学している。1年生と2年生は単学級だが、3・4年生と5・6年生は複式学級で、特別支援学級を含めて5学級の小規模・複式校である。

3 研究の概要

(1) 研究主題「豊かにかかわり合い、学び続ける万江っ子の育成」

副主題 ～ICTの効果的な活用と言語活動の充実を通して～

① アナログとデジタルを関連づけた指導の工夫

ICTを効果的に活用するとともに、板書・ノート・教材などを併用することで、学習意欲を高め、学びの基礎となる力の定着を図る。

- ・デジタル教科書や自作教材、実物投影機等の活用
- ・電子黒板と板書、タブレットPCとノートとの併用

② 複式学級における指導の工夫

複式学級の特質を生かし、学習リーダー等を活用しての主体的な間接指導や交流学习での学び合いを行うことで全体を高める。

- ・学習リーダー、「学習の流れカード」、「一人学びガイド」等の活用
- ・間接指導時のICTの活用（学習ソフト、デジタルコンテンツ、動画等）

③ 効果的な言語活動の工夫

言語活動意識した授業展開の工夫や環境づくりをすることで、豊かな学び合いにつなげる。

- ・発表ボード、電子黒板、タブレットPCを活用した共有の場の設定
- ・「発表の仕方」、「学習用語・ポイント」等の掲示と言語環境の整備

(2) 公開授業

① 1校時－3・4年生算数（児童数 3年生5名・4年生8名）「何倍でしょう」

② 2校時－5・6年生国語（児童数 5年生8名・6年生5名）

5年生「大造じいさんとがん」・6年生「この絵、こう見る」

4 所感

万江小学校の取組は、「学習意欲の向上」、「個に応じたきめ細かな指導を重視した指導方法の改善」や「課題意識をもって自ら学び、仲間と共に高め合う学習過程の改善・充実」を踏まえ、特にデジタル教科書をはじめICT機器を活用した学力向上を進める上で示唆に富んだ研究発表だった。ICT機器活用を視野に入れている本校の校内研修にも大変役立つ発表だった。万江小学校の研究実践には児童が主体的に学ぶ授業改善へのヒントが多々あり、参考になった。

J 分科会

学んだことを活用できる児童の姿をめざして

～学ぶ力の定着とICTを活用した授業をとおして～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 鈴木 健一

1 会場校 芦北町立大野小学校（学級数5 生徒数42名 職員数11名）

2 地域・学校の概要

芦北町は熊本県の南部に位置し、総面積の約80%を森林で占める。西方に開けた芦北海岸はリアス式海岸を形成し、温暖な気候による甘夏みかんやデコポンの産地としても知られている。

大野小学校は標高170mの大野盆地の入口で、山と田畑に囲まれ、米作りを中心とした農村地帯にある。開校は明治8年4月で、本年度で140周年を迎えるが、平成18年度の3校統合で校区が広範囲となり、児童の約80%がスクールバス通学である。また、児童数も年々減少し、平成25年度より複式学級を有する学校となった。

保護者や地域は、学校に大変協力的で、学習支援や体験活動支援などで多くの関わりがある。また、12年前よりカンボジア支援活動として米や玉葱を育てて、学校建設のための募金活動を行っている。この国際支援活動は、社会科教科書へ掲載されたり、西日本国際財団から表彰を受けたりしている。

3 研究の概要

(1) 研究の仮説

- ① 授業過程において、自ら学んでいくための手引きを作成し、学び方の知識や技能、考え方を繰り返し指導していけば、学ぶ力が定着していくであろう。
- ② 授業を展開する場面において、基礎的・基本的事項の定着を図る場面および作業段階で目的をもってICTを活用していけば、学習目標を理解し学んだことを活用できる力が育成されるであろう。

(2) 具体的な取組

- ① 分かりやすい言葉で児童に授業の流れを体得させる「むつみあい学習」を学校のスタイルにし、この学習の流れに合わせて、「学習リーダー」を生かしたガイド学習を行っている。
- ② 複式学級による指導の質・量の低下を防ぐため、教師の説明時間がかかる内容や学習リーダーが進行しづらい内容では、積極的にICT機器を使用する。

(3) 公開授業

- ① 算数 第2・3学年：「かけ算」「重さのたんいとはかり方」
- ② 算数 第4・5学年：「がい数の表し方」「分数のたし算とひき算」

4 所感

大野小学校は保護者と地域が関わる体制ができあがっており、地域全体で子どもを育てるとともに、地域だけに留まらず、地域全体として国際交流を推進している学校であると感じた。

公開授業では、複式学級における算数の授業を参観した。教師が直接指導できない時間帯には、学習リーダーとなった児童が計画的に学習を進めていて驚いた。形式的すぎて思考の深まりが感じられない場面もあったが、児童が状況に合わせて指示を出し、発表等を仕切っている姿は、自主性が確実に育っている学校だと感じた。複式学級の特性を考慮し、教師がどのタイミングでどんな発問をし、学習リーダーにバトンを渡すかを工夫することで、子どもの思考がさらに深まっていく期待がもてる学校だと感じた。

資 料

I 平成27年度 へき地学校資料

〈1〉 級別へき地学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成27. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A 計 分校	B 県全体 分校	$\frac{A}{B}$
	小学校	8	2	6	6	1	1(1)	0	24 1(1)	318 3(1)
中学校	5	2	1	4	2	1(1)	0	15 1(1)	164 2(1)	9.1%
計	13	4	7	10	3	2(2)	0	39 2(2)	482 5(2)	8.1%

〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成27. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
	小学校								
本校	8	2	6	6	1	0	0	23	24
分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)
中学校									
本校	5	2	1	4	2	0	0	14	15
分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)

〈3〉 級別へき地学校児童生徒数

平成27. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	$\frac{A}{B}$
	小学校	715	515	407	296	54	0	0	1,987	104,539
中学校	332	282	40	378	52	0	0	1,084	55,301	2.0%
計	1,047	797	447	674	106	0	0	3,071	159,840	1.9%

〈4〉 郡市別へき地学校数一覧

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成27. 5. 1 現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準	
					4	3	2	1	準	特		
1	前 橋	小 中	1(1) 1(1)	1(1) 1(1)		1(1) 1(1)						1(1) 1(1)
2	渋 川	1		1							1	1
3	高 崎	2 1		2 1					2			2 1
4	安 中	1 1		1 1							1 1	1 1
5	多 野	2 2		2 2			1 2	1				2 2
6	甘 楽	1		1							1	1
7	吾 妻	10 5		10 5			4 3	1 3	2 1		3 1	10 5
8	沼 田	2 2		2 2				1 1			1 1	2 2
9	利 根	5 2		5 2			1 1	2 1			2 1	5 2
総	小 計	23 14	1(1) 1(1)	24(1) 15(1)	0 0	1(1) 1(1)	1 2	6 4	6 1	2 2	8 5	24(1) 15(1)
	計	37	2(2)	39(2)	0	2(2)	3	10	7	4	13	39(2)

〈5〉 複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成27. 5. 1 現在

郡市	学 年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
渋川市	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
高崎市	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2
吾妻郡	1	0	1	0	1	0	0	0	3	2
沼田市	1	0	1	0	1	0	0	0	3	2
利根郡	1	0	3	0	1	0	0	0	5	3
計	4	0	8	0	3	0	0	0	15	11

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0

II 平成27年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成28. 1. 15現在

会 長	星野 巳喜雄 (沼田)	
副会長	田村 利男 (多野：神流町長)	篠原 勝郎 (吾妻：中之条町教育委員長)
	千明 金造 (利根：片品村長)	
理 事	佐藤 博之 (前橋：前橋市教育長)	後藤 晃 (渋川：渋川市教育長)
	飯野 眞幸 (高崎：高崎市教育長)	桑原 幸正 (安中：安中市教育長)
	黒澤 右京 (多野：上野村教育長)	碓井 良一 (甘楽：南牧村教育長)
	篠原 勝郎 (吾妻：中之条町教育委員長)	星野 巳喜雄 (沼田)
	千明 金造 (利根：片品村長)	

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
前 橋 市		佐 藤 博 之 (教育長)
渋 川 市		後 藤 晃 (教育長)
高 崎 市		飯 野 眞 幸 (教育長)
安 中 市		桑 原 幸 正 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	黒 澤 右 京 (教育長)
	神 流 町	山 田 孝 行 (教育長)
甘 楽 郡	南 牧 村	碓 井 良 一 (教育長)
吾 妻 郡	中 之 条 町	鳶 村 真 也 (教育長)
	長 野 原 町	市 村 隆 宏 (教育長)
	嬭 恋 村	黒 岩 優 行 (教育長)
	草 津 町	中 澤 隆 (教育長)
	高 山 村	高 橋 直 幸 (教育長)
	東 吾 妻 町	小 林 靖 能 (教育長)
沼 田 市		宇 敷 重 信 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	星 野 準 一 (教育長)
	昭 和 村	板 橋 芳 郎 (教育長)
	みなかみ町	増 田 郁 夫 (教育長)

監 事 鳶 村 真 也 (吾妻：中之条町教育長) 星野 準一 (利根：片品村教育長)

平成27年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 鈴木 健一 ・ 柳幸 真

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
前 橋 市	前橋市教育委員会	黛 正 人	田 川 正 武 (中部教育事務所)
渋 川 市	渋川市教育委員会	高 橋 充	
高 崎 市	高崎市教育委員会	丸 山 剛 史	長谷部 秀 樹 (西部教育事務所)
安 中 市	安中市教育委員会	城 田 敬 子	
上 野 村	上野村教育委員会	今 井 久 司	
神 流 町	神流町教育委員会	齋 藤 朋 美	
南 牧 村	南牧村教育委員会	小 池 悦 子	一 場 民 人 (吾妻教育事務所)
中 之 条 町	中之条町教育委員会	島 村 弘 志	
長 野 原 町	長野原町教育委員会	佐 藤 忍	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	松 本 初 恵	
草 津 町	草津町教育委員会	沖 津 則 夫	
高 山 村	高山村教育委員会	平 形 英 俊	内 藤 麗 子 (利根教育事務所)
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	水 出 智 明	
沼 田 市	沼田市教育委員会	林 武 史	
片 品 村	片品村教育委員会	角 田 弘 明	
昭 和 村	昭和村教育委員会	中 島 伸 枝	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	小 倉 正 人	

Ⅲ 平成27年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 倉林 由恭 (高崎：高崎市立倉渕小学校)
- ・副理事長 飯出 哲夫 (多野：上野村立上野中学校)
- 富沢 正 (吾妻：中之条町立六合小学校)
- 中野 敬造 (沼田：沼田市立平川小学校)
- ・常任理事 中村 喜雄 (甘楽：南牧村立南牧中学校)
- 埴田 栄一 (吾妻：長野原町立応桑小学校)
- 狩野 英市 (渋川：渋川市立南雲小学校)
- ・事務局長 本多 利幸 (安中：安中市立細野小学校)
- ・会計部長 山田 久徳 (高崎：高崎市立宮沢小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	備考
A 前橋 ・高崎 ・安中 ・多野 ・甘楽	倉林 由恭	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	理事長
	飯出 哲夫	上野村立上野中学校	多野郡上野村檜原113 (0274-59-2040)	副理事長 総務部長
	本多 利幸	安中市立細野小学校	安中市松井田町新井365 (027-393-1322)	事務局長
	中村 喜雄	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	常任理事
	山田 久徳	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	会計部長
B 吾妻	富沢 正	中之条町立六合小学校	吾妻郡中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	副理事長
	埴田 栄一	長野原町立応桑小学校	吾妻郡長野原町応桑20-2 (0279-85-2002)	研究部長
	地田 功一	嬭恋村立嬭恋中学校	吾妻郡嬭恋村大笹1654-2 (0279-96-0009)	

B 吾 妻	柴崎 弘光	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	
	中沢 雅紀	東吾妻町立坂上小学校	吾妻郡東吾妻町本宿401-1 (0279-69-2005)	
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	中野 敬造	沼田市立平川小学校	沼田市利根町平川839 (0278-56-2009)	副理事長
	狩野 英市	渋川市立南雲小学校	渋川市赤城町長井小川田1435 (0279-56-2911)	調査部長
	今井 浩	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0278-56-2044)	
	小野 和好	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田4480 (0278-58-2019)	
	中島 誓子	沼田市立多那小中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2698)	
「板木」 実務 担当	今井 浩	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0278-56-2044)	

IV 平成27年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾 妻	小野塚則幸	長野原町立第一小学校内	〒377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5 (0279-82-2145)
利 根	小林 仁史	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 平成27年度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	くろさわ ふきこ 黒澤 ふき子 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に神流町立万場小学校教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校に38年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	くろさわ きようこ 黒澤 京子 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に神流町立中里中学校マイタウンティーチャーとして退職するまで、多野郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	おおたき さよこ 大瀧 小夜子 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に中之条町立六合小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に35年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	いちむら たかひろ 市村 隆宏 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に長野原町立東中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	うらの やすき 浦野 安喜 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に長野原町立中央小学校総括事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	みやざき みつお 宮崎 光男 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に嬭恋村立田代小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	いぬい きしみ 乾 姫志美 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に嬭恋村立嬭恋中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	しもや ゆきやす 下谷 幸康 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に嬭恋村立西小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に28年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	やまもと よしかず 山本 好一 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に草津町立草津小学校公仕として退職するまで、草津小学校に21年6か月間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	やまだ ひさじ 山田 久次 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	たむら あつこ 田村 厚子 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に高山村立高山中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	みやざき ゆきお 宮崎 幸夫 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立坂上中学校教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に28年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	しのはら みちお 篠原 三千雄 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立岩島小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に25年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
14	しのはら く に こ 篠原 久仁子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立東小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
15	やまの くにあき 山野 邦明 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立太田中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
16	うめざわ つやこ 梅澤 艶子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立坂上小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
17	たかはし れいこ 高橋 玲子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に東吾妻町立原町小学校総括補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
18	ちぎら ふさこ 千明 ふさ子 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に沼田市立利根東小学校校長として退職するまで、利根沼田地区のへき地学校に23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
19	なかむら ひでお 中村 秀雄 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に沼田市立利根東小学校教諭として退職するまで、利根沼田地区のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
20	ほしの きくえ 星野 希久枝 片品村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成27年3月に片品村立片品南小学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
21	ほしの まつえ 星野 松江 片品村教育委員会推薦	2 (2) (ア) 平成27年3月に片品村給食センター調理員として退職するまで、片品村給食センターに33年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第64集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしています。

昨年度は、「第63回全国へき地教育研究大会」が群馬県で開催されました。全国各地からたくさんの方々に参加していただき、多くの研究成果を発表していただくなど、へき地教育についての考えをさらに深める貴重な機会となりました。今年度は、その成果を受け、各学校においてさらにへき地ならではのよさを生かした実践を積んでいるところです。その実践の様子がこの「板木」にも多数掲載されていますので、少しでも参考にさせていただければ幸いです。

残念ながら、群馬県においても児童生徒数の減少による小中学校の統廃合が進み、それによってへき地学校も激減しています。そのような時だからこそ、みんなで力を合わせ、へき地教育を盛り上げていきたいものです。

今年度も、ご多用の中、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集などたくさんのご協力をいただきました。おかげさまで今年度も無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。皆様のご協力によりできあがった「板木」第64集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下の通りです。

群馬県教育委員会事務局	三好 賢治（義務教育課長）
	白石 直樹（義務教育課補佐・教科指導係長）
	鈴木 健一（義務教育課 教科指導係 指導主事）
	柳幸 真（義務教育課 教科指導係 指導主事 板木担当）
群馬県へき地教育研究連盟	吉野 隆哉（県へき連 顧問 全へき連会長）
	倉林 由恭（県へき連 常任理事・理事長）
	富沢 正（県へき連 常任理事・副理事長）
	中野 敬造（県へき連 常任理事・副理事長・研究部）
	飯出 哲夫（県へき連 常任理事・総務部長・広報担当）
	本多 利幸（県へき連 常任理事・事務局長・総務部）
	中村 喜雄（県へき連 常任理事・研究部・へき地新聞担当）
	埴田 栄一（県へき連 常任理事・研究部長）
	狩野 英市（県へき連 常任理事・調査部長）
	山田 久徳（県へき連 理事・会計部長・調査部）
	地田 功一（県へき連 理事・会計部長・調査部）
	柴崎 弘光（県へき連 理事・図書担当）
	中沢 雅紀（県へき連 理事・調査部・監査）
	小野 和好（県へき連 理事・総務部）
	中島 誓子（県へき連 理事・監査）
	今井 浩（県へき連 理事・板木担当）